

(第一類 第十一回国会)

第七十一回国会

建 設 委 員 会 議 錄 第二十八号

(七六七)

昭和四十八年七月十八日(水曜日)  
午前十時五十八分開議

出席委員

委員長 服部 安司君

理事 天野 光晴君

理事 田村 良平君

理事 村田 敬次郎君

理事 渡辺 栄一君

理事 井上 普方君

理事 福岡 義登君

理事 浦井 洋君

理事 渡辺 栄一君

理事 小沢 一郎君

理事 梶山 静六君

理事 野中 英二君

理事 林 滋谷君

理事 廣瀬 正雄君

理事 清水 利尚君

理事 渡辺 惣藏君

理事 中島 德松君

理事 松浦 利尚君

理事 森井 恒三君

理事 渡辺 恒三君

理事 棚谷 直藏君

理事 野中 英二君

理事 田村 良平君

理事 井上 普方君

理事 福岡 義登君

理事 浦井 洋君

理事 渡辺 栄一君

理事 小沢 一郎君

理事 梶山 静六君

理事 野中 英二君

理事 林 滋谷君

理事 廣瀬 正雄君

理事 清水 利尚君

理事 渡辺 惣藏君

理事 中島 德松君

理事 松浦 利尚君

理事 森井 恒三君

理事 渡辺 恒三君

理事 棚谷 直藏君

理事 野中 英二君

理事 田村 良平君

理事 井上 普方君

理事 福岡 義登君

理事 浦井 洋君

理事 渡辺 栄一君

理事 小沢 一郎君

理事 梶山 静六君

理事 野中 英二君

理事 林 滋谷君

理事 廣瀬 正雄君

理事 清水 利尚君

理事 渡辺 惣藏君

理事 中島 德松君

理事 松浦 利尚君

理事 森井 恒三君

理事 渡辺 恒三君

理事 棚谷 直藏君

理事 野中 英二君

理事 田村 良平君

同(瀬野栄次郎君紹介)(第八六六三号)  
同(正森成二君紹介)(第八六六四号)  
同(三浦久君紹介)(第八六六五号)  
同(小瀬新一郎君紹介)(第八六九九号)  
同(原健三郎君紹介)(第八六六八号)  
同(塩川正十郎君紹介)(第八六六七号)  
同(塩川正十郎君紹介)(第八六九八号)  
同(松澤雄藏君紹介)(第八六六九号)  
同(梶山静六君紹介)(第八六九七号)  
同外一件(塚原俊郎君紹介)(第八六九八号)  
同月十六日  
建築設計監理業法制定に関する請願(住栄作君紹介)(第八八一二号)  
同(寺前巖君紹介)(第八八一二号)  
同(今井勇君紹介)(第八九〇七号)  
同(受田新吉君紹介)(第八九八九号)  
同(柏谷茂君紹介)(第八九〇〇号)  
建築家職能法制定に関する請願外一件(早稻田柳右エ門君紹介)(第八九九一号)  
日本住宅公団による筑波研究学園都市建設事業継続等に関する請願(井上普方君紹介)(第八九二号)  
同(清水徳松君紹介)(第八九九三号)  
同(福岡義登君紹介)(第八九九四号)  
公営住宅払下げに関する請願(栗原祐幸君紹介)(第八九九五号)  
公営住宅建設事業の標準建設単価及び起債充当率の引上げに関する請願(床次徳二君紹介)(第八九九六号)

建築設計監理業法制定に関する請願(玉置一徳君紹介)(第九一四四号)  
君紹介)第九一四四号)  
は本委員会に付託された。

七月十八日

久留米市梅林寺前の道路拡張計画変更に関する請願(稻富稟人君紹介)(第九六三号)  
は委員会の許可を得て取り下げられた。

七月十六日  
建築基準法の改正等に関する陳情書(横浜市西区浅間町四の三四〇の一市民の日照と住環境を守る会長本間龍雄)(第五一四号)  
全国不動産協会の設立認可反対に関する陳情書(名古屋市中区栄二の一〇の一九名古屋商工会議所会頭土川元夫)(第五九五号)  
里道、水路等の認定外公共物の管理に関する陳情書(全国市長会中国支部長広島市長山田節男)(第五九六号)  
宅地の供給促進に関する陳情書(名古屋市中区栄二の一〇の一九名古屋商工会議所会頭土川元夫)(第五九五号)  
地建物取引業保証協会長松田清)(第五一五号)  
四国高速循環道路(8の字型)の早期実現等に関する陳情書(四国四県議会正副議長会代表愛媛県議会議長山崎福馬)(第五一六号)  
広域下水道事業に対する国庫補助率引上げ等に関する陳情書(近畿二府六県議会議長会代表滋賀県議会議長山崎福馬)(第五一七号)  
準用河川管理費に対する財政措置に関する陳情書(近畿二府六県議会議長会代表滋賀県議会議長山崎福馬)(第五一八号)  
長脇坂栄二外七名)(第五一八号)  
水源地域対策特別措置法案の成立促進に関する陳情書(豊川水系総合開発促進期成同盟会長豊橋市長河合陸郎)(第五一九号)  
高速自動車道における日本道路公団の自主救急体制強化に関する陳情書外一件(中国五県議会正副議長会議代表鳥取県議会議長角田勇一外十名)(第五二〇号)  
日本・四国連絡橋関連高速自動車道の建設促進(正木良明君紹介)(第九一四三号)

同(柴田陸夫君紹介)(第八六六一号)  
同(瀬崎博義君紹介)(第八六六二号)  
同(正木良明君紹介)(第九一四三号)  
日本住宅公団による筑波研究学園都市建設事業継続等に関する請願(浦井洋君紹介)(第八六五号)  
日本住宅公団による筑波研究学園都市建設事業継続等に関する請願(新井彬之君紹介)(第九一四二号)  
日本・四国連絡橋関連高速自動車道の建設促進(正木良明君紹介)(第九一四三号)

にに関する陳情書(中国四国九県議会正副議長会議代表高知県議会議長川村博将外八名)(第五九二号)  
公営住宅の建設事業等に関する陳情書(全国市長会中国支部長広島市長山田節男)(第五九三号)  
中小建設業の安定拡大に関する陳情書(東京都中央区日本橋茅場町一の一八全国中小建設業協会長鈴木光男)(第五九四号)  
里道、水路等の認定外公共物の管理に関する陳情書(全国市長会中国支部長広島市長山田節男)(第五九六号)  
土地の供給促進に関する陳情書(名古屋市中区栄二の一〇の一九名古屋商工会議所会頭土川元夫)(第五九五号)  
里道、水路等の認定外公共物の管理に関する陳情書(全国市長会中国支部長広島市長山田節男)(第五九六号)  
国土総合開発法案等反対に関する陳情書(仙台市国分町三の三の七宮城県町村議會議長会長菅井秀夫外十名)(第五九七号)  
土地対策の確立に関する陳情書外一件(仙台市国分町三の三の七宮城県町村議會議長会長菅井秀夫外十名)(第五九七号)  
市岩倉一〇二日本フューライト労働組合渡辺善秀外二百十六名)(第五九八号)  
は本委員会に参考送付された。

本日の会議に付した案件

屋外広告物法の一部を改正する法律案(内閣提出第七七号)(參議院送付)

久留米市梅林寺前の道路拡張計画変更に関する請願(稻富稟人君紹介)(第九六三号)の取り下げの件

○服部委員長 これより会議を開きます。

この際、請願取り下げの件についておはかりいたします。

本委員会に付託されております請願中、第九六三号、久留米市梅林寺前の道路拡張計画変更に関

する請願について、七月十四日付をもって、紹介議員福富凌人君から取り下げ願いが提出されております。

○服部委員長 〔異議なし」と呼ぶのであります。御異議なしと認めます。よって、さよう決しました。

○服部委員長 次に、内閣提出、参議院送付、屋外広告物法の一部を改正する法律案を議題とし、

質疑を行がいます

○中村(茂)委員 それでは屋外広告物法のこの日  
ます。中村茂君。

的についてお聞きしますが、屋外広告物の表示されたその内容について規制されるものではない、こういうふうに理解するわけですけれども、そういう理解でいいのですか。

○中村(茂)委員 そうすると、この五条の、途中  
からですけれども、「広告物及びこれを掲出する  
ない、そういう法律でございます。

○吉田(泰)政府委員 「意匠」というのは、広告物の形状面積色彩意匠その他」というふうにあります。この「意匠」というのは、広告物そのものの中身の意匠と、いうふうにこの法文ではとれますけれども、そうすると内容についても一応の規制をする、こういうふうになりますが、その五条の「意匠」というのは、どういうふうに理解しているのですか。

〔委員長退席、渡辺（栄）委員長代理着席〕  
これは、その限りでは内容にも入っているんじゃないかということでございますが、先ほど私、内容に入らない法律であると申し上げましたのは、中における文章表現であるとか図画の表現であると

か、そういう意思の伝達という、広告のその本来的な内容、そういう意味で申し上げたわけでございまして、五条に書いてある限りにおいて、その県の判断によつて、ある一定のデザインのものは困るというような余地は残り得ることになつております。

○中村(茂)委員 最近の広告は、文字よりも意匠、デザイン、こういう内容が多く、一般の公衆に広告物としてのアピールができる、こういう傾向にあるわけです。しかも、こういうものの中身の表現、これを、文字であろうと、意匠、デザインであろうと、この広告物の法律の性格からして、制限をするということは、これは大きく言えば憲法二十二条の言論、表現の自由、こういう関連からして、特にこの広告物の掲示の問題については重視しなければならない内容を持っていると思うわけであります。したがつて、第一条の目的である、内容についてはこの法律は触れるものではないのだ、この大原則からいえば、この五条の「意匠」の解釈について、いま言われたような解釈では私は納得できません。

○吉田(泰)政府委員 表現の自由の中核は、その意思表示の内容そのものであります。それで、この法律は、そういうもののはあえて触れずに、設置する場所とか、あるいは設置する物件であるとか、あるいは外形象的な形状とか寸法とか色彩とか、そういうものを禁止あるいは許可の対象にするということによりまして美観風致の維持という公共目的を達成しようとするものであります。意匠といふものは、確かにおつしやるよう、厳密に言えば広告物そのものの形態という場合ももちろん含みますし、それ以外の、若干内容に当たる面もあるかもしませんが、この法律に書いてありますものは、その意匠そのものが一般の公衆に対してどういった内容の意思であるか、ということ、そういう観点で考えるのではなくして、意匠のあり方によって美観風致という観点からはなはだ好ましくないというものもあり得るのではないか。もちろんそれは各県で判断されるわけですが

か、そういう意思の伝達という、広告のその本来的な内容、そういう意味で申し上げたわけでございまして、五条に書いてある限りにおいて、その県の判断によって、ある一定のデザインのものは困るというような余地は残り得ることになつております。

○中村(茂)委員 最近の広告は、文字よりも意匠、デザイン、こういう内容が多く、一般の公衆に広告物としてのアピールができる、こういう傾向にあるわけです。しかも、こういうものの中身の表現、これを、文字であろうと、意匠、デザインであろうと、この広告物の法律の性格からして、制限をするということは、これは大きく言えば憲法二十一條の言論、表現の自由、こういう関連からして、特にこの広告物の掲示の問題については重視しなければならない内容を持つてゐると思うわけであります。したがって、第一条の目的である、内容についてはこの法律は触れるものではないのだ、この大原則からいえば、この五条の「意匠」の解釈について、いま言わされたような解釈では私は納得できません。

○吉田(泰)政府委員 表現の自由の中核は、その意思表示の内容そのものであります。それで、この法律は、そういうものはあえて触れずに、設置する場所とか、あるいは設置する物件であると

が、そういう意味であります、それによつてそれが、表示する表示者の意思そのものが制約されるとは考えておらない次第でございます。

○中村(茂)委員 苦しい答弁ですけれども、いずれにしてもこれは条例を定めて、条例でやるわけでありますし、それを皆さんのが指導するわけであります。これは、一条の精神というのは、あくまでも内容については制限を加えておるものでもないし、中身について取り扱つておる法律ではないわけであります。あくまでも、どういう地域に、どういう場所に、何に表示することができるか、できないか、こういう法律の内容でありますから、その中身についてここのこところで明らかに——意匠という問題については特に最近の広告の内容からして触れてくる問題であります。その上に色彩という問題があるわけです。だからあくまでも、ここで見ていくとこの意匠というものは中身にどうしても入らざるを得ない内容になつてゐるわけですよ。だから、これから条例のあり方ですね、それを運用するしかたとして、やはり法の一條の精神をこの五条の「意匠」によって曲げられないように十分指導していただきたい、こういうふうに思いますが、その点いかがですか。

○吉田(泰)政府委員 おっしゃるとおりでありますして、この条文を拡大的に解釈して内容にわたる

か、あるいは外的的な形状とか寸法とか色彩とか、そういうものを禁止あるいは許可の対象にするということによりまして美観風致の維持という

公共目的を達成しようとするものであります。意匠といふものは、確かにおつしやるように、厳密

に言えば広告物そのものの形態という場合でもちろん含みますし、それ以外の、若干内容に当たる面もあるかもしれません、この法律に書いてある

りますものは、その意匠そのものが一般の公衆に對してどうハづた内容の意思であるかと、ハづこ

と、そういう観点で考えるのではなくして、意匠のあり方をよつて美観風致といふ観点からはなほ

だ好ましくないと、いうものもあり得るのではない。もちろんそれは各県で判断されるわけですか。

卷之三

が、そういう意味であります。それによってそれを表示する表示者の意思そのものが制約されるとは考えておらない次第でございます。

○中村(茂)委員 苦しい答弁ですけれども、いざれにしてもこれは条例を定めて、条例でやるわけありますし、それを皆さんが指導するわけがあります。これは、一条の精神というのは、あくまでも内容については制限を加えておるものでもないし、中身について取り扱っておる法律ではないわけであります。あくまでも、どういう地域に、どういう場所に、何に表示することができるか、できないか、こういう法律の内容でありますから、その中身についてここのことろで明らかに——意匠という問題については特に最近の広告の内容からして触れてくる問題であります。その上に色彩という問題があるわけです。だからあくまでも、ここで見ていくとこの意匠というのは中身にどうしても入らざるを得ない内容になつてゐるわけですよ。だから、これから条例のあり方ですね、それを運用するしかたとして、やはり法の一条の精神をこの五条の「意匠」によって曲げられないように十分指導していただきたい、こういうふうに思いますが、その点いかがですか。

○吉田(泰)政府委員 おっしゃるとおりであります。して、この条文を拡大的に解釈して内容にわたるような規制をするというようなことは法律は全く考えていないわけでありますから、念を入れて十分指導をしたいと考えます。

○中村(茂)委員 この一条に関連してもう一つお聞きしますが、この法律は「条例の基準を定める」、こういうふうになつてあるわけですが、ここでいう基準というものは、それから皆さんはもう標準条例案というのを出して指導していると、いう話を聞きますけれども、その中身についてひとつ明らかにしていただきたい、こういうふうに思います。

が、そういう意味でありますて、それによってその表示する表示者の意思そのものが制約されるとは考へておらない次第でござります。

○中村(茂)委員 苦しい答弁ですけれども、いざれにしてもこれは条例を定めて、条例でやるわけでありますし、それを皆さんのが指導するわけであります。これは、一条の精神というものは、あくまでも内容については制限を加えておるものでもないし、中身について取り扱つておる法律ではないわけであります。あくまでも、どういう地域に、どういう場所に、何に表示することができるか、できないか、こういう法律の内容でありますから、その中身についてこのところで明らかに——意匠という問題については特に最近の広告の内容からして触れてくる問題であります。その上に色彩という問題があるわけです。だからあくまでも、ここで見ていくとこの意匠というのは中身にどうしても入らざるを得ない内容になつてゐるわけですよ。だから、これから条例のあり方ですね、それを運用するしかたとして、やはり法の一条の精神をこの五条の「意匠」によつて曲げられないように十分指導していただきたい、こういうふうに思ひますが、その点いかがですか。

○吉田(寒)政府委員 おっしゃるとおりであります。この条文を拡大的に解釈して内容にわたるような規制をするといふようなことは法律は全く考へていませんから、念を入れて十分指導をしたいと考えます。

○中村(茂)委員 この一条に関連してもう一つお聞きしますが、この法律は「条例の基準を定める」、

こういうふうになつてゐるわけでありますかここでいう基準といふもの、それから皆さんのはうで標準条例案というのを出して指導していると

いう話を聞きますけれども、その中身についてひとつ明らかにしていただきたい、こういうふうに

○吉田(森)政府委員　この法律は、戦前の広告物思ひます。

行政のあり方が非常に中央集権的であり、地域地域に即した美観風致という点でむしろそぐわない。

卷之三

いう意味で、拘束力はない形でございますが、モデルとして示すという性格のものでございまして、昭和三十九年に、これをモデルとして必要ならば参考にされたいと、いう形で通達したわけでございます。

その内容は、法律の個々の条文を受けまして、禁止地域とか、禁止物件とか、許可の対象になるなど、いろいろな禁止場所とか許可基準であるとか、期限後除却する義務であるとか、一定の場合は許可の取り消し、除却命令、それから、これは法律にございませんが、慎重を期する意味で、いろいろな審議を尽くした結果を採用するようになります。そこで、審議会の設置であるとか、手数料、罰則、こういった規定を網羅して書いてあるつもりでございます。

○中村(茂)委員 それじゃ一つ例をとつて申し上げますが、電柱、これは常識的には二いろいろあります。電電公社の電話を通す電柱、それから電気を通す電柱、これは民間、一口に電柱というと二つあると思いますけれども、その電柱について、皆さんのほうでいま言われた標準条例案においてはどういう取り扱い方になつているのですか。それと、この法律で一応基準としてどこのところに、その電柱を該当させているのですか。ひとつ電柱を例にとって明らかにしてください。

○吉田(泰)政府委員 電柱につきましては、標準条例案では「禁止物件」、第四条というところに規定しております。まず一般の広告物全体につきまして「電柱、街灯柱その他電柱の類で知事が指定するもの」、そこには広告物を掲出することを禁止することができるということで、この場合と

委員「電柱はすべてではなくて、何ですか」と呼んで第四条第一項というのがありますして、そこでは「電柱、街路柱その他電柱の類で知事が指定するもの」とありますから、知事が指定する電柱だけが禁止物件になるということになりますが、第二項でもって「電柱、街路柱その他電柱の類には、これはすべてのものについて、「はり紙、はり札、又は立看板を表示してはならない。」こういうふうにしております。つまり、広告にはいろいろの種類がありますが、そのうちでもはり紙、はり札、立看板という種類の広告物は電柱には一切禁止することができる、こういう趣旨であります。

法律のほうは、これに対応する規定としては第四条第二項に「都道府県は、条例で定めるところにより、「左の各号に掲げる物件に広告物を表示し、」云々のことを禁止し、又は制限することができる。」とあります、ここで例示してありますものは「橋りょう」「街路樹、路傍樹」「銅像及び

のを入れたということについては、これは行き過ぎじゃないか。条例案の行き過ぎではないか。例示にはっきりと一、二、三というふうにあるわけですよ。ここに電柱なんか全然ないわけですよ。それをこの条例案に入れている。しかも四号は知事がきめることでしょ。県がきめることでしょ。だから、これこれこういうものもあるけれども、この面については知事がきめなさいという条例案ならない。そうじやなくして、一号、二号、三号と同じような羅列になっていて、しかも、先ほどのお話ではポスター、はり札、立看板、こういうふうに張るものまで禁止しているということについてでは、皆さんのほうで出した標準条例案の行き過ぎではないか。法を忠実に守った条例の一つの案だと言うことは行き過ぎだ、こういうふうに私は理解するのですが、その辺のところについてもう少し解説していただきたい、こういうふうに思います。

たまうる航行後がかなりたちましてから、各県の実情その他運用上の実際を見まして、一つにはあまりにもばらばらではいかぬというようなことからつくつたものでございます。そういう意味で、もとよりこれによるべしというよう拘束的な指示は何らしておらないわけあります。それにしても、電柱等法律に明示されてないものを標準条例案にあえて記載した理由とかあるいはいきさつ、並びにどう考へても行き過ぎではないか、こういう御指摘ござりますのでお答えしますが、標準条例案は、当時の各県の条例を広く見渡しまして、その中でも数多くの県がほぼ採用しているような内容のものを、各県の多數が採用していく建設省から見てもあっておかしいとも思わないような内容のものを拾いまして、それを基礎につくり上げたわけでございまして、全く白紙の状態で条例ができたのではない。当初の段階から建設省が積極的に標準条例案を出して指示したという点ではございません。そういうことで、簡単に申し上げれば、各県で電柱等を禁止物件にしておつ

ところで、はどうしてそんなことになつたのか。電柱といふものは、この法律に例示してあるような銅像、記念碑とか橋梁、街路樹、路傍樹といったよだやなものは、禁止物件とするにはかなり感じが違う物件ではないかということございまます。確かに、電柱そのものを考えましたときには、銅像、記念碑のよだやな、それ自体が美的観念、美的価値のあるものとはほど遠いわけでございますが、実際に広告物行政をやつております立場もあわせ考えますと、道路の両側に電柱が立つてゐるということが非常に多いわけで、そういう意味で町を通る人の人目に非常につきやすい。しかも数多く列をなして立てられてゐるわけありますから、そこに広告物が表示されるということは、一面、見る人の数が非常に多いという意味で広告の効果が大きいのであります。他面、美觀風致を害するという程度も、数の多さ、人目のつきやすさといふところから格段に大きいわけでありまして、そういう点をいろいろ考慮して、各県においても電柱といふものは美觀風致の維持のための非常に重要な物件である、こういう判断からその種の規定が多かつたのでござります。標準条例案に法律に書いたとおりのことと書くのでは、これはモデル条例の意味をなしません。法律でその他々と書きましたことをより具体的にふえんするということが実際の条例には必要なわけでありますから、そういうものの主たる傾向とらえまして、法律に書いてない——書いてないというのは、一般的に抽象的にしか書いてないものを具体化していくということは標準条例案としても必要なことではないか、こう考えておる次第でございます。

○中村(茂)委員 法律に書いてないことを書いておく、幅を広げていくのが標準条例案だという言ふ方については私は絶対納得できませんよ。何をきめるんでしょう。都道府県がきめるんでしょ

う。都道府県がきめるものは、自主的にきめればいいのですよ。それを、法律できまつている三号までわせて、電柱まで幅を広げて法律の解釈をして、それで標準条例だということを出すということについては、これは行き過ぎだというふうにとにかくは、これは行き過ぎだというふうにいわざるを得ません。法律の幅を解釈してどんどん広げていくのが標準条例だという言い方について私は絶対に納得できません。しかも、その条例については、どこの県がこういうふうになつていいとか、こういう参考ならないですよ。そういう場合は私はあると思うのです。しかし、法律できまっている三号とあわせて四号の参考にさせるということについては、これは標準条例なんといふものじゃなくて、あなたのほうのかつてな、一方的な押しつけですよ。

その結果はどういう結果が出て、かるかと、ええ、

具体的な例で申し上げますと、大阪の場合には、皆さんの標準条例に基づいて大阪府の屋外広告物条例の二条の三項に「ポスター、はり紙及び立看板を表示し、または掲出することができない。」それには「電柱およびこれに類するもの」、あと二、三とあります。が、今度東京都の屋外広告物条例を見るに、電柱の問題については、法の五条の先ほど申し上げた位置とか、形状とか、色彩、こういうものについて、電柱である場合にはどういうふうにしなければならないかという規制であって、電柱にポスター、立看板等を張つてはならないといふ、大阪の条例の中にある条項は一つもあります。東京の条例が私はまさにこの法律に基づく精神をよくみ取った条例になつてゐるというふうに思うわけです。大阪のほうは皆さんのほうで出したその電柱も加えてなつてある。

それから、先ほど言われましたが、電柱というのはずつと立っていますから、宣伝をし、広告物として張り出すには一番効果があるわけです。風致の面からいへばこれはまたいろいろ問題があるでしょう。しかし、きちんと張つておけばこれはそれほど問題じゃないでしよう。宣伝をするほうからいへば一番効果があるわけですよ。それを建

設省の標準条例ということで、これは何といつても標準で出せば一律になりますからね。その県なりの自主性に基づいて、自分のところの条例で定めている、こういうことならそれは都道府県の自主性ですからあれですけれども、これを皆さんのはうの条例案に入れて、それで例を見るといま一つの例をあげたわけですかれども、大阪の場合には具体的に禁止条項になつてゐる。東京都の場合にはなつてない。同じ法律に基づいて行なわれていく問題が、特に宣伝力の大きい電柱等について全国がこういうふうにばらばらになつて、いるということについては、法のもとに平等であるべき姿というものが、特に宣伝力の大きい電柱についてこういう姿になつてゐるということについては、これはもとをだせば、先ほど言いましたように、あなたのほうでこういう法律がないものを、都道府県が自主的にきめればいいものを標準条例の中に入れてしまつたというところに一番の問題点があるのでないか、こういうふうに思うわけです。だからその標準条例をまず撤回して、本来の標準条例にしていただきたいと思うわけであります。

を生じているという、そういうたつ経緯にかんがみまして、各県においても研究勘案の末、やはり電柱といふものはわが県においては禁止をしよう、こういう結果が出ているものと思います。確かに東京におきましてはその種の規定がございませんので、電柱が禁止物件というふうに一がいに扱われていない、という点は大阪府などとは違います。標準条例案とも違うわけであります。これはそもそも、最初に申し上げましたように、各県の判断において法律の範囲内でそれをどう具体化していくかということは、本来都道府県の所有事務として条例事項にまかせられていいわけでありますから、そういう差が出るということをやむを得ないのではないか、こう考えます。

標準条例案は、こういったものは一切なく、法律の規定に従つて各県ではんとうに自由に判断してもらいたい、ということもあつたわけですが、やはり法施行後何年もたつて、あまりにも違うといふこともいかがかという声も出来まして、普通の国的事務を、こうあつてもらいたい、という規制力、拘束力を持つた形で指導通達等はできないわけであります。が、モデルの条例案としてつくることによります、各県で多くのところが採用しておるものを探げるということを行ないまして、参考にしてもらえればけつこうだ、という趣旨であります。これが拘束的な意味を持つものでは決してない、ということは十分周知しているところであります。この機会に、御指摘のありました点につきましては再度よく検討させていただきたいと思いますが、国の意思によつて各県の自主性にまかせられるべきことをあって強力に引っぱっていこうという、そういうような他意はない、ということだけは申し上げたいと存じます。

に入れるということは、これはあくまでも全国に標準としてやれということでしょう。それはあなたのほうであくまでも参考、参考と言うけれども、受けるほうは、今までばらばらであつたら、ばらばらでいけないから、法文にもないから、電柱はやめるようにするということで入れなければ……。これは入れないほうが標準になるわけですよ。ところが、ばらばらで、入っているのを入れればそれが標準になるわけでしょう。そういう標準条例のつくり方は私はないと言うのです、法文からして。だから、きちつと標準条例を示すなら、これは「橋りょう」から始まって三号まではつきりと法文できまっていますね。「橋りょう」というのを電柱と見るのはだれもいないですね。四号に都道府県がきめるということになつてゐるのだから、都道府県できめられたものについてはこれこれこうだ、これは全く皆さんの御判断ですということなら、これはそれに対してきめこまかく指導したということになるでしょ。しかし、そういうばらばらなものを三号までの「橋りょう」以下のものと合わせて——電柱というものが入れてあるところ、ないところがある。それを電柱だけ取り上げてそこに入ってきたということになれば、これはどう考へたてその標準条例のつくり方は標準じゃありませんよ。皆さんのはうの意図があつたというふうに理解せざるを得ません。だから、この条例案についてはよく検討してみるとということですけれども、そういう間違つたものについては撤回してもらう。明らかにしてください。

るである」こう明示してあります。そういう意味で先ほども御答弁申し上げたわけがありますが、それにしましても、法律に明示されてないことは文字どおり各県にまかせればいいじゃないかといふ御指摘でございます。法律に書いてないことで、各県の条例に詳細に事項を掲げ、ふえんしてある項目はたくさんあるわけでござりますので、その全体を見渡しまして、その詳しさ等から見ても、大体そのまま条例になる程度の詳しさのものを考えて標準条例案を作成したわけであります。が、中でもいまの電柱を一切、ビル等につきまして禁止物件にしているという点が非常に問題じゃないかという御指摘でありますので、これを採用している県が数としては多いのですが、重ねての御指摘でありますので十分検討させていただきたいと思います。

○中村(茂)委員 この条例違反をめぐつてすでに裁判にかかっている問題が幾つかあります。それで裁判の結果判決が出た事件も幾つかあります。が、無罪になつたのがありますね。これは昭和四十一年二月二十日午前二時四十分ごろ、電柱にビルを張り出した事件で、昭和四十三年十月八日に牧方簡易裁判所の取り扱つた事件ですけれども、この無罪判決は、いろいろ長くありますけれども、一番の無罪になつた大きな理由というのは、先ほどもちよと意見が出てましたけれども、電柱というのは非常に宣伝力もあるし、そこへボスター等、ビルを張るということは、宣伝的にも、経費の面からしても安上がりで、非常に宣伝的な効果がある。これは憲法二十一條の、言論表現の自由を基本的に認めてる、この表記の自由という面からして、非常に効果的な基本的な問題だ。それを条例等によって一方的に禁止していふということになれば、その反面、十分表現の自由を拘束するような、電柱へのビル張りというものを利用できるような措置を公の場でするという代價がない限り、こういう一方的な、表現の自由だ。憲法違反だ。だから無罪だ。一口に言えばそ

ういう趣旨の無罪判決になつてゐるわけではありません。また一方、有罪の判決がでているのもあります。

そこで、私は特にこの判例を引用したのは、やはり憲法二十一条でいっている言論、表現の自由というものは、こういうものを規制していく場合に十分考えなければいけない。それが特に電柱という問題に集中的にあらわれてきているとすれば、先ほどから言つておりますように、条文にもない、それぞれの県が自主的にきめる、それを皆さんのはうで、一律にするという意味ではない、参考だというふうに言いますけれども、一応条例の案にそういう重要な問題を載せて、これが標準条例案だと、参考にしてくれと出す行政の方、これは非常に問題があるのでないか、そういう意味でこれを引用しているわけであります。

それから、このピラ張りに関連してもう一つ問題になるというふうに思いますのは、輕犯罪法一三三号に、やはりこの条例について関連していくるピラ張りの問題が一応規制となつてゐる条項があります。しかしこれは一応条件がこの条項にはあるのではないか、こういうふうに私は思うわけであります。それは別に長々と読みませんけれども、みだりにやつてはいけない、これは一応の規制というか、そういう部類に入る。しかもこの三十三号は一番先に、みだりに無断で張るといふことはいけないよ。それからこの軽犯罪法の四条にはやはり基本的な問題として、こういく種の問題については先ほどから言つておりますように表現の自由とかそのほか基本的な問題が多く制限されていく事項だから、取り扱い等については慎重にしなければいけない、こういう一応の精神的な規制があります。

ところがこの広告物のはうは、禁止するというふうになつたら条例でびしゃっと禁止ですよね。しかも先ほどから言つておりますように、これが制限の違反だということで裁判になつた。その裁判の中でも表現の自由という面から、先ほど言つたように十分考えなければいけない問題だ。こう

いう扱い方になつてしまふとすれば、この電柱の問題については、ただ電柱だから、こういうことはなしに、先ほどから言つておるよう、十分検討する、検討するということではなしに、こういふものについては参考であるうと何であろうと、皆さんは一方的に標準条例の中で流すということではないに、あくまでも法できまつておるとおり府県に一任する、おまかせします、こういう態度を明確にひとつしていただきたいと思うわけあります。

○吉田(泰)政府委員 軽犯罪法の規定のしかた等にお触れになりましたが、これについての答弁を求められているのではないと思いますので、先ほど來の問題の電柱の問題かと存じます。御趣旨の点も私としてもよくわかりますので――標準条例案に電柱項目を入れたことは他意がなかつた、この他意がないというのは、標準条例案以前にそういう条例を制定されていた県が多くて、その経緯等を見ればその必要性もわかるということから標準条例案に入れたわけでございますけれども、電柱をめぐる問題が非常に多いことも事実であろうかと思ひます。そういう点で、ここではつきりと即答もいたしかねる次第でありますが、十分意のあるところを私どもとしても考えまして、十分に検討させていただきたいと思います。

○中村(茂)委員 大臣の考え方をお聞きします。

○金丸国務大臣 ただいま先生と局長のお話を聞いておったわけでございますが、私も他意がないと思うわけでございますが、他意がないといつましても、法律で出る以上は他意がないとは言つておられない。しかし、事ここまで来ておる現時点におきまして、ひとつ御理解をいただきたいと思うわけでございます。行政の指導等を徹底的にいたしまして、通達等によりまして先生のお考究の趣旨を徹底させていきたい、こう考えておりま

あとただ都道府県がそれをどういうふうに判断するかというだけのことですから、その法の趣旨をすなおに指導してもらえばいいのです。それを条例案の中に入れて、条例案の前文には参考なんだと書いたところで、やはり条例案の中へ、しかも電柱のところに掲示できないものとしてポスターとか立看板とか、そういう広告物の種類まで明らかにして、電柱にはいけない。しかもこれは参考ですといってみたところで、こんなのは法にはどこにもないんでしょう。都道府県ではっきりと判断することなんですから、だからその法の趣旨といふものはやはりきっと都道府県に行政指導の中で指導してもらう。ここまで来てしまったからどうだのというものではなくて、もう少し大臣、別にむずかしいことを言っているわけではないのです、明らかにしてもらいたいと思います。

○吉田(豪)政府委員 標準条例案は、何度も申したように参考にすべきないわけであります。現在規定がありますものをこの場で削るということだが、ちょっとと即座に判断しかねてするために先ほどのような答弁になつてゐるわけでございますが、そのような他意は初めからないわけでありますから、この標準条例案の第四条に、「電柱、街灯柱その他電柱の類には、はり紙、はり札又は立看板を表示してはならない。」と、あえて一般広告物の中でも張られやすいと思われるこういった三種類の看板に限りまして一切禁止物件と定義できることを例示した。この標準条例案の条文の作成につきましては、前向きに検討の上善処したいと思ひます。

○金丸国務大臣 削るというようないい問題につきましては、事務当局とすればこれ以上の答弁はできないと私は思うわけでありますし、それ以上の問題につきましては委員会におまかせいたしますから、かかるべく……。

○渡辺(栄)委員長代理 ちょっとと速記をとめて。

〔速記中止〕

ては、先ほど私から問題をことさらに起こすというような意味の他意はなくて、各県の大勢を見た上でのことであると申し上げましたが、そういうことで歯切れの悪い御答弁を申し上げておりましたけれども、この際、標準条例案の問題の項目、たれども申し上げたことにつけましては、削除いた先ほど申し上げたことをいたしましたが、そういうふうにいたします。

○中村(茂)委員 削除して——今までずっと私はその削除する趣旨について法の精神からしていろいろ言ってきたわけですが、そういうことを含めて、法の四条二項四号では都道府県の全く自主的な判断でやればいいですから、削除して、その趣旨を各県に指導していただきたいと思いますが、それについてひとつ明確な答弁をしてください。

○金丸国務大臣 削除いたしまして、各府県に指導を徹底的にいたします。

○中村(茂)委員 ではそのようにお願いしたいと特に、そういうふうにしていただくわけでありますけれども、私はこの電柱という問題は、公職選挙法の面からしても非常にむずかしい内容が含まれているというふうに思うのですよ。公職選挙法でそれぞれ許されたボスター、看板、それから公職選挙法の中において許されている政治活動のポスター、こういうものについて、私の知る限りでは、確かに国とか地方公共団体、国鉄、専売、電電公社——電電公社の電柱、これらはいけませんけれども、先ほど言っている橋梁——これは広告物法のほうではつきりしてしまいますけれども、橋梁、それから民間の電気を伝わらせる電柱、これらについては、電気会社のほうのそこへ掲示させるには料金を幾ら取るか、そういう制限はあります、しかし、そこは公職選挙法なら公職選挙法のもとに、張ってはいけないという制限の中では、いま申し上げた後段のほうの橋梁、電気を伝わらせる民間の電柱、これについては許される、こういうふうに理解していますが、そういう公職選挙法のほうの関係とこの広告物法のほう

の関係は、当然選挙法が優先する、こういうふうに理解するのですが、そういうふうに理解しているですか。

○吉田(泰)政府委員 公職選挙のためのビラ、ポスターの類の掲示につきましては、公職選挙法によりまして掲示個所その他の規制がなされているわけでありますので、この屋外広告物法ではこれにタッチしないというたてまえであります。

○中村(茂)委員 自治省、来ておるでありますとか地方公共団体所有でございますとかいうものにつきましては、ポスターの掲示も禁止いたしております。「但し、橋りょう、電柱、公営住宅その他の命令で定めるもの」等につきましては「この限りでない。」という規定を置いておりますことは御指摘のとおりでございます。そして、それが可能なものにつきましては、所有者、管理者等の承諾が要る、こういう法規でありますとともに御指摘のとおりでございます。ただいまの広告物法との関係でございますが、私どもいたしましては、公選法といたしましては選挙に関する立場から公選法として規定をいたしておるわけでございまして、他の目的から法で規制されているものでございまして、公選法でございましては、選挙期間が過ぎますと、これは屋外広告物法の規定が適用になります。各県の条例でも公職選挙法による選挙のための広告物を適用除外にしておるという条例になつていてるわけで、それ以外の期間につきましては、屋外広告物法はやはり美観風致の維持という目的に立ち戻りまして、そういったものも対象になり得る、こういうわけであります。

○中村(茂)委員 電柱の問題をさつきからやつたわけですが、先ほどのようだ、電柱、橋梁、公営住宅、これはその限りではないというのですから、その法で定まっている選挙については張ることができる。選挙が終わつて、橋梁は広告物法にもはつきり禁止の条項に載つておりますから、そのままあつたら、張つた人間がはつきりしていれば、つかまって罰金ですか。

○吉田(泰)政府委員 屋外広告物法は、条例によつて「罰金のみを科する規定を設けることができる。」という条文を入れまして、条例の定め方にあります。が、自治法の規定等も根拠にいたしまして、現在違反の態様により罰金の規定が置かれています。これは違反広告物に直罰の規定もありますが、一番重い例は、知事が撤去命令をしたにもかかわらず撤去しないというようなもの

いうことがありますけれども、それ以上撤去しないものについて罰則とか、別にそういうものはないと思うのです。そういうふうに一応公職選挙法の範囲からはずれた、今度の改正にも関係してくると思うのですけれども、看板なら看板が出されておる。なるほど選挙期間中は公職選挙法に基づいて掲示されておる。選挙が過ぎてしまつた。法の上では直ちに撤去するという法がありますけれども、そのままあつた。ポスターも同じで

すが、その場合には、選挙が過ぎてしまうとどうなるのですか。

○吉田(泰)政府委員 選挙期間が過ぎますと、これは屋外広告物法の規定が適用になります。各県の条例でも公職選挙法による選挙のための広告物を適用除外にしておるという条例になつていてるわけで、それ以外の期間につきましては、屋外広告物法はやはり美観風致の維持という目的に立ち戻りまして、そういったものも対象になり得る、こういうわけであります。

○中村(茂)委員 電柱の問題をさつきからやつたわけですが、先ほどのようだ、電柱、橋梁、公営住宅、これはその限りではないというのですから、その法で定まっている選挙については張ることができる。選挙が終わつて、橋梁は広告物法にもはつきり禁止の条項に載つておりますから、そのままあつたら、張つた人間がはつきりしていれば、つかまって罰金ですか。

○吉田(泰)政府委員 屋外広告物法は、条例によつて「罰金のみを科する規定を設けることができる。」という条文を入れまして、条例の定め方にあります。が、自治法の規定等も根拠にいたしまして、これにつきましては五万円以下と書いてあるのが二十九、あと三万円以下というような例がございます。あと、虚偽の申請等も五万円とか二万円とか一万円という各段階で規定されているわけであります。

○中村(茂)委員 条例にそれぞれまかしてあるからいいわけですが、いま聞くと上は十万円、下は三万円ですね。これは三万円の県は少ないわけですが、十萬円と三万円では、同じ法律のもとに同じ行為をして罰金が——これは当然、罰金ですかいろいろその行為、中身によつて定まつてくる問題でありますけれども、同じ法律のもとで十萬円から三万円というようなもの

という規定がありまして、それに次いでその他の違反、つまり直罰的な規定の違反といつものが五万円とか三万円というようなことで規定されているわけであります。

○中村(茂)委員 条例で罰金を定めることになつてあるのか。その内容についていきますが、各県が十萬円以下ですよ。十萬円以下ならかつてですけれども、大体どういう程度の罰金をきめてあるのか。その内容について概括でけつこうですか明らかにしてもらいたい、こういうふうに思います。

○吉田(泰)政府委員 先ほど申しました除却命令に違反した場合、これは違反広告物に対しても特に除却命令を出す、それでも従わなかつたという一番重い場合であります。これにつきましては二十二の都道府県または指定市が十萬円以下としております。それから二十六の都道府県、指定市が五万円以下としております。三万円としているところが二つというわけであります。次に、この許可を要する地域とか禁止地域等に違反して広告物を表示したものとか、それから期間が満了したときには違滞なく除却しなければならない、そういう義務違反であるとか、汚損、破損、落下的おそれのあるようなものに対する、知事が除却も含めた措置命令を発した場合に、それを聞かなかつた、

こういうものが次のグループになつております。これにつきましては五万円以下と書いてあるのが二十九、あと三万円以下というような例がございます。あと、虚偽の申請等も五万円とか二万円とか一万円という各段階で規定されているわけであります。

○中村(茂)委員 条例にそれぞれまかしてあるからいいわけですが、いま聞くと上は十万円、下は三万円ですね。これは三万円の県は少ないわけですが、十萬円と三万円では、同じ法律のもとに同じ行為をして罰金が——これは当然、罰金ですかいろいろその行為、中身によつて定まつてくる問題でありますけれども、同じ法律のもとで十萬円から三万円というようなもの

きい開きがあり過ぎるのじやないですか。その点



ち、特にビラとポスターというような分け方については、分析したものをお把握しておりません。○浦井委員 そうするとどういう尋ね方をしたらよいのですかね。営業的、商業的な違反検挙件数、これがこのうちにどれくらいあるのですか。

（普）委員「あさつてまでに間に合うのか、どうだ」と呼ぶ間に合わせたいと思ひますけれども、極力努力いたします。

人数なり、歴年、たとえば先ほど言われた四十二年から四十七年でもよろしいですが、この数字はわかりますか。

うなビラ、ポスターのたぐいは、そのことが物理的に危害を与えるということは考えられませ  
が、一面、道路交通の支障になるような形で、権  
識の表示とまぎらわしいものとか、これを見にこ  
くするとかいうような意味の危害は考えられる  
思います。それからはり札、立看板ということに  
なりますと、フク组件があつて、物理的にも、

○林川説明員 商業広告物とその他の宣伝活動といいますか、そういうものを分けたものについて、実は十分統計をとつておりませんので、その内訳についていまここでお答えいたしかねるわけでございますが、御了承いただきたいと思います。

の、あるいは公私に危険を及ぼすもの。ではこの内訳をしつかり抑えているかといふと、お尋ねかと思いますが、これまたたいへん申しわけないことですけれども、先ほどの商業広告と、その他の広告宣伝、態様別に分けて統計をとつて

れの取りつけが悪いという場合に、大きな広告塔などの転落などとはないにしても、やはりかなりの危害という可能性はあるのではないか。まあビルについては御指摘のようなことだし

○浦井委員 その程度のことは、この屋外広告物法の一部改正が国会で審議をされるということで、あれば当然尋ねられるということで準備をしておかなければいかぬじゃないですか。警察庁どうですか。

なんです。それを警察庁はここで用意しておらぬいというのは全く怠慢であると私は思うわけですが、だからこれは、あさってが定例日で、そこでもう一度この法案の審議が行なわれるわけですかね、それまでにひとつ委員長、資料を整えるよう三回とも貢献して、おまかせです。

おらないと同じように、この二つの違反態様につきましても実は分けてどうございません。でこれもまた、先ほどお答え申し上げましたように特別調査をして明らかにする必要があると存じます。

○浦井委員 まあきわめて——きわめてははゞぎ  
思ひます。  
いいですが、まれにそういうビラで危害を加ふ  
るというケースも私はあえて否定はしませんけれども、ほんとはそういうことはないということにならうと思つたのです。

○林川説明員 御指摘のようになし、かりに検討をしておくべきだったと思ひますが、私、ちょっとどうかつてございまして、目下のところ十分分析をいたしておりませんよな状態です。

○浦井委員 そうしたら、その点はひとつ保留に  
○服部委員長 ちよつと速明をとめて。  
〔速記中止〕

（源井委員）更詰（大臣）はお尋ねをいたしもので、私はと警察庁の問答を聞いていただいておつておられたとと思うのですけれども、この法律の目的、たとえばビラ、ポスターでいいますならば、公衆に危害を加えるというような点でありまさ  
（源井委員）（略）

で、序論はそれぐらいにいたしまして、憲法等  
二十一條に言論表現の自由が保障されておる、  
こういうことで、これは言うまでもなく民主主義の  
基本であるわけです。だから、単にこれが憲法等  
どうこういってるだけじゃなく、この言論表达と

○相川説明員 犯罪統計の数字はいまコンピューターでとつておるわけですが、その統計のとり方に、いま先生が御指摘のような分け方で実は統計すけれども、そうすると調べればわかるわけですか。

しておきたいと思うのです。  
その次の問題は、今度は分類を変えまして、先ほど建設省のほうから、この法律の目的は美觀保全に一致、それから公衆に対する危害の防止というふうに言ふべきでありますけれども、公衆に対する危害に言われたわけですけれども、公衆に対する危害

すけれども、公衆に危害を加えるというのは、生  
ほどの建設省の御答弁のように物理的な危害を加  
えるということになりますと、これは大体張つて  
あるビラやポスターが公衆に危害を加えるとい  
ふことはなかろうと私は思うのですけれども、ひと

法を含めたいいろいろな法律において、あるいは各条例において、具体的にしかも実質的にこの憲法条項というものは保障されなければならぬと思うわけです。さらに言うならば、古來から——古來

をとつていいわけです。したがいまして、この中身といいますか内訳を明らかにするためには、各県警察に、特別調査というと大げさですかけれども、特に命じまして調査をすれば明らかになります。

を防止するという目的に反したために検挙をされた事例というのは一体どれくらいあるわけですか。

○大臣の御所見をお伺いしたいと思うのです。  
○金丸国務大臣 先生御指摘のとおりだと、私は  
同感であります。

ししますが、半に明治維新後どうぞありますか、ピラ、ボスターのたぐいというのは、あまり金を持たない庶民、一般大衆が自分の言いたいこと最大限に訴える非常に大きな手段になってきてるわけです。これは一般大衆はもちろん、労働の

○浦井委員 どれぐらいの日数で明らかになりますか。

て、先生の御質問を十分聞き取ることができませ  
んでしたので、もう一度お願ひします。失礼いた  
しました。

一が残るわけで、美觀風致という項に違反をしておるというようなことにならざるを得ぬのではなか  
いかと私は思うわけですが、この点では建設大臣どうでしようか。

○浦井委員 国会は二十四日に終わるということになると、それで、それまでの委員会審議に間に合いませんか。

先ほど建設省に尋ねたのですけれども、この法律の目的の一つは「公衆に対する危害を防止するため」ということになつておる。よろしいですか。その目的に反するために検挙された件数なりか。

○吉田(泰)政府委員　屋外広告物にはいろいろな種類がありまして、大きなものは広告塔のようなものから、広告板とか、通常看板とか、置き看板と、いろいろあるわけでござります。御指摘のと

都市の美観を維持するというような名のもとに、言論、表現の自由の保障が不当に踏みにじられていって、事例が私はあまりにも多いといふに思うわけですけれども、まず大臣、どのように

思われますか。

○金丸国務大臣 先生御指摘のように、この法は美観風致の維持、あるいは公衆に対する危害防止というようなことに限定されておるわけであります。私もこの法案を提出するにつきましてはいろいろな意味でこの法案を検討いたしてみました。私は政治家であります。選挙もやらねばならぬということですから、この法案が選挙に影響するというようなことがあつたらどうなるだろうかということも検討し、それも差しさわりない、あくまでただいま申し上げたところに限定されておるということです。ざいますから——ただ、今までそういう面でいろいろ取り締まりが不法に行なわれたということも私耳にいたしておるわけでございますが、この法はあくまでも町の風致、景観、美觀あるいは危害防止というようなことについて限定されておるわけでござりますから、先生のおっしゃられるような、これによつて言論、表現の自由を抑圧するというようなことは全然私は考えておりません。

○浦井委員 現実には、大臣まだお聞きになつて

おらないのかもしませんけれども、言論、表現の自由がやはり客観的には侵害をされておる。そ

の方法、手段としてこれが利用をされておる、悪用されておるということは、これはあとで申し上げたいと思うのですが、敵としてあるわけなんです。私は選挙のことだけを言つておるわけではありません。先ほど申し上げましたように、日本の民衆が、金も地位もない、そういう中で多くの人たちに訴える手段として、ボラ、ポスターなど

が有効に使われてきた、こういう歴史的な事実の上に立つて申し上げておるわけなんです。警察問。

○相川説明員 先ほどお答え申し上げましたよ

うに、過去数年間の屋外広告物条例違反の件数を見ましても、年間それ相応の検挙件数があるわけでござります。しかし、これらの検挙ないしは取り締まりにあたりましては、私ども常に公正中立の質

立場を堅持することを第一線の警察官にもよく指

導いたしておりますし、決して憲法に保障された

言論の自由といふものを侵害するというようなこ

とはないよう十分留意させております。したが

いまして、過去の検挙事例につきまして、憲法の表現の自由とのかね合いをよく勘案といいますか、尊重して、適正な取り締まりということを指導いたしておりますので、それほど行き過ぎた例

といふものはないと確信いたしております。

○浦井委員 白々しくもそういう答えをされたものだと私あきれるわけですから、先ほど私が申し上げたように、検挙件数、検挙人数の内訳さえもわからぬ。單に末端の警察官をそういう形で指導しておるから大体公正にいっておるのではないことは、私は全く信用ができない

といふふうに思うわけです。だからこの判決は、そのあとで引き続いて、

「住民達の大半は純朴な漁師であり、警察官の意見を尊重して行動するにおいては、絶対に間違いないものと信頼した——前示立看板等の掲出にかかるようなことでは、私は全く信用ができない

といふふうにしか私は言えないと思うわけです。だからこの判決は、そのあとで引き続いて、

に——勧告したことにより、——住民達の大漁旗

ならびに立看板の掲出となつたものである——

こういうふうに書かれておるわけです。これで

は全く検挙をするために住民をペテンにかけたと

いうふうにしか私は言えないと思うわけです。だ

けれども、これに違反する、それから輕犯罪法の違反だということで検挙された事例であります。

この中で、これは松山の簡易裁判所の判決が出て

おるわけですが、少し長いのははしょつて読んで

いきますと、こういうことなんです。

「住民達が公害対策について——活動を開始し

た——頃、一所轄警察署である松山西警察署に

結果來訪した某巡査に対し、公害の実情ならびに

会社側の態度等を詳細に説明し、住民達の活動に

つき、警察官の理解を求めたのである」

「住民達が——会社の門前において、座り込み

を行つた——その際住民達は所期の目的を貫徹す

るため、何時までも座り込みを繼續する旨、決意

しておられたようである。——このことを察知した某

巡査らは、「住民達に対し」ここが大事なんです。

「老人や子供も居ることだし、この寒いのに座り

込みをするよりか、会社の前に旗を立てたり、看

板でも出した方が、より効果的ではないか」旨暗

に——勧告したことにより、——

「住民達の大漁旗

ならびに立看板の掲出となつたものである——

こういうふうに書かれておるわけです。これで

は全く検挙をするために住民をペテンにかけたと

いうふうにしか私は言えないと思うわけです。だ

けれども、これに違反する、それから輕犯罪法の

違反だということで検挙された事例であります。

この中で、これは松山の簡易裁判所の判決が出て

おるわけですが、少し長いのははしょつて読んで

いきますと、こういうことなんです。

「住民達が公害対策について——活動を開始し

た——頃、一所轄警察署である松山西警察署に

結果來訪した某巡査に対し、公害の実情ならびに

会社側の態度等を詳細に説明し、住民達の活動に

つき、警察官の理解を求めたのである」

「住民達が——会社の門前において、座り込み

を行つた——その際住民達は所期の目的を貫徹す

るため、何時までも座り込みを繼續する旨、決意

しておられたようである。——このことを察知した某

巡査らは、「住民達に対し」ここが大事なんです。

「老人や子供も居ることだし、この寒いのに座り

込みをするよりか、会社の前に旗を立てたり、看

板でも出した方が、より効果的ではないか」旨暗

に——勧告したことにより、——

「住民達の大漁旗

ならびに立看板の掲出となつたものである——

こういうふうに書かれておるわけです。これで

は全く検挙をするために住民をペテンにかけたと

いうふうにしか私は言えないと思うわけです。だ

けれども、これに違反する、それから輕犯罪法の

違反だということで検挙された事例であります。

この中で、これは松山の簡易裁判所の判決が出て

おるわけですが、少し長いのははしょつて読んで

いきますと、こういうことなんです。

「住民達が公害対策について——活動を開始し

た——頃、一所轄警察署である松山西警察署に

結果來訪した某巡査に対し、公害の実情ならびに

会社側の態度等を詳細に説明し、住民達の活動に

つき、警察官の理解を求めたのである」

「住民達が——会社の門前において、座り込み

を行つた——その際住民達は所期の目的を貫徹す

るため、何時までも座り込みを繼續する旨、決意

しておられたようである。——このことを察知した某

巡査らは、「住民達に対し」ここが大事なんです。

「老人や子供も居ることだし、この寒いのに座り

込みをするよりか、会社の前に旗を立てたり、看

板でも出した方が、より効果的ではないか」旨暗

に——勧告したことにより、——

「住民達の大漁旗

ならびに立看板の掲出となつたものである——

こういうふうに書かれておるわけです。これで

は全く検挙をするために住民をペテンにかけたと

いうふうにしか私は言えないと思うわけです。だ

けれども、これに違反する、それから輕犯罪法の

違反だということで検挙された事例であります。

この中で、これは松山の簡易裁判所の判決が出て

おるわけですが、少し長いのははしょつて読んで

いきますと、こういうことなんです。

「住民達が公害対策について——活動を開始し

た——頃、一所轄警察署である松山西警察署に

結果來訪した某巡査に対し、公害の実情ならびに

会社側の態度等を詳細に説明し、住民達の活動に

つき、警察官の理解を求めたのである」

「住民達が——会社の門前において、座り込み

を行つた——その際住民達は所期の目的を貫徹す

るため、何時までも座り込みを繼續する旨、決意

しておられたようである。——このことを察知した某

巡査らは、「住民達に対し」ここが大事なんです。

「老人や子供も居ることだし、この寒いのに座り

込みをするよりか、会社の前に旗を立てたり、看

板でも出した方が、より効果的ではないか」旨暗

に——勧告したことにより、——

「住民達の大漁旗

ならびに立看板の掲出となつたものである——

こういうふうに書かれておるわけです。これで

は全く検挙をするために住民をペテンにかけたと

いうふうにしか私は言えないと思うわけです。だ

けれども、これに違反する、それから輕犯罪法の

違反だということで検挙された事例であります。

この中で、これは松山の簡易裁判所の判決が出て

おるわけですが、少し長いのははしょつて読んで

いきますと、こういうことなんです。

「住民達が公害対策について——活動を開始し

た——頃、一所轄警察署である松山西警察署に

結果來訪した某巡査に対し、公害の実情ならびに

会社側の態度等を詳細に説明し、住民達の活動に

つき、警察官の理解を求めたのである」

「住民達が——会社の門前において、座り込み

を行つた——その際住民達は所期の目的を貫徹す

るため、何時までも座り込みを繼續する旨、決意

しておられたようである。——このことを察知した某

巡査らは、「住民達に対し」ここが大事なんです。

「老人や子供も居ることだし、この寒いのに座り

込みをするよりか、会社の前に旗を立てたり、看

板でも出した方が、より効果的ではないか」旨暗

に——勧告したことにより、——

「住民達の大漁旗

ならびに立看板の掲出となつたものである——

こういうふうに書かれておるわけです。これで

は全く検挙をするために住民をペテンにかけたと

いうふうにしか私は言えないと思うわけです。だ

けれども、これに違反する、それから輕犯罪法の

違反だということで検挙された事例であります。

この中で、これは松山の簡易裁判所の判決が出て

おるわけですが、少し長いのははしょつて読んで

いきますと、こういうことなんです。

「住民達が公害対策について——活動を開始し

た——頃、一所轄警察署である松山西警察署に

結果來訪した某巡査に対し、公害の実情ならびに

会社側の態度等を詳細に説明し、住民達の活動に

つき、警察官の理解を求めたのである」

「住民達が——会社の門前において、座り込み

を行つた——その際住民達は所期の目的を貫徹す

るため、何時までも座り込みを繼續する旨、決意

しておられたようである。——このことを察知した某

巡査らは、「住民達に対し」ここが大事なんです。

「老人や子供も居ることだし、この寒いのに座り

込みをするよりか、会社の前に旗を立てたり、看

板でも出した方が、より効果的ではないか」旨暗

に——勧告したことにより、——

「住民達の大漁旗

ならびに立看板の掲出となつたものである——

こういうふうに書かれておるわけです。これで

は全く検挙をするために住民をペテンにかけたと

いうふうにしか私は言えないと思うわけです。だ

けれども、これに違反する、それから輕犯罪法の

違反だところでやるわけですね。警察が

独自でやるというよりも、屋外広告物条例の違反

と同じ基準、同じような見解のもとに取り締ま

る必要があるわけですね。この辺、実は美観風致を

害するということでやるわけですね。警察が

独自でやるというよりも、屋外広告物条例の違反

と同じ基準、同じような見解のもとに取り締ま

意をいたしております。おびただしい違反の広告物も御指摘のようにあるかと思います。これを全部取り締まるということは、わが警察の体制からいつてもときに不十分な面がございます。そこでこの取り締まりにつきましては、目に余るものに第一線では取り締まりなり捜査をいたしておると思いますが、いざれにしましても公正中立な立場で、目に余る違法な物件、これを取り締まつてくということで十分指導をいたしてまいりたいと存じます。

○浦井委員 この件に対する答えには一向になつておらないわけなんです。いたずらに公正中立といふようなことばを繰り返しておられるだけにすぎないというふうに私は思います。この件については、明らかに警官が、いえば教唆扇動してやつた、そして違反になつた、検挙をされた。しかも後段の件では、映画や演劇のポスターには一度もそういう違反といふような形でのこのらく印は押しておらないのに、こういう形での住民の立看板やポスターの掲出については直ちに警察官が出动するといふようなことが、私は一つ例をあげただけですけれども、これがいまの実態の典型をあらわしておると私は思つたわけです。大臣、どうですか。

○金九国務大臣 言論、表現の自由というものは国民ひとしく平等に守られるべきものであると私は思います。先生のおっしゃられるようなことはあります。するとならば片手落ちだと私は思います。

○浦井委員 時間もあまり余裕がないので、いろいろな例を申し上げたいわけすけれども、典型的なものだけを一つ申し上げたいと思う。これは大阪の例であります。

【昭和四十四年九月三日午後二時半頃、大阪・大淀区内でビラはり中の関西共同印刷の青年労働者にたいし、大淀署の警官がピストルを抜いて「逃げると射つぞ」といつて追いかけるという事件が起きました。

仲間や市民は、「まったくそら恐しい」「こん

なひどいやり方はけしからん」と、この事実をさつそくビラにして街々に配布し、大淀署に抗議を行つた。これは朝日新聞等にも大きく報道され、この警官は転勤処分を受けました。

このほか大阪では、港・水上署の警官が、ビラはり活動中の女性の手を自分の自転車にロープでしばりつけ、約一・五キロも街中を引きまわし連行した事件や、また、ある女性を交番に連れこみ、「はつてたビラをどこにかくした」と、スカートをめくるなどの破廉恥きわまる取調べを行なつた事件など、ビラはり強圧にかかるる警察の人権無視はあとをたまません。」

あとを断たないといふように書いてあるわけですが、警察署どうですか、これでもあなたは末端の警察官に対し公正中立な立場で指導をしておると言ふことを張つて言ひ切ることができます。どうぞ。翌十三日、同じビラ一枚を電柱にはつたとして連れこみ飯能署に連行。しかし、これは急を聞いてかけつけた仲間が抗議し、すぐ放逐。さらに十四日夜、川越駅前で「小選挙区制反対」のつり看板を掲示していた女性が、警官に「県屋外広告物条例違反の疑いがある」として交番に連行されました。間もなく釈放しましたが、抗議団の追及にたいし警察は「つり看板は違反ではなく」と認めながらも、「警官がそうだと思ひませんが、先生がいま御指摘になつたようなことがほんとうの実態關係としてあつたとは私は思ひません。十分承知していないで、そういう答弁をすることはいささか的はずれになるかもしれませんけれども、なお私、そのような事実關係について十分関係者からも事情を聞いて私自身も確かめたいと思います。いずれにしましても、先ほど申し上げましたように、警官に、屋外広告物のあるいはビラ張りなり札張り行為に対して不当な行き過ぎた取り締まりといふものがなによろしく十分指導はしてまいりましたし、今後もしてまいります。」

○浦井委員 思いたくないというような、こういうところで主觀的な架空の答弁をしてもらつては困るわけなんです。私は事実に基づいてきちんと質問をしようと考えておるわけなんです。思つたくない。一方では私は厳正中立な態度を貫くようになります。現実には末端ではこういう事例に指導しておる。現実には末端ではこういう事例

が続発しておる。あなたが一番初めに読まれたよ

うな、そういう数字、しかもその分類がない、こ

ういうずさんな分析で一体どうしてそういう事例

がないというようなことを言い切ることができる

わけですか。

もう一つ事例をあげてみましょう。今度は関東地方、埼玉県。

「小選挙区制反対運動が、埼玉県内の各地で活発にくりひろげられる中で五月十二日夜、飯能市内で「小選挙区制反対」のビラを電柱にはつてたとして、飯能署は三名の労働者をバトリーに連れこみ飯能署に連行。しかし、これは急を聞いてかけつけた仲間が抗議し、すぐ放逐。

翌十三日、同じビラ一枚を電柱にはつたとして一名が与野駅前交番に連行されました。これも抗議の末、完全黙秘のまま約一時間半後に釈放。

さるに十四日夜、川越駅前で「小選挙区制反対」

のつり看板を掲示していた女性が、警官に「県屋外広告物条例違反の疑いがある」として交番に連行されました。間もなく釈放しましたが、抗議団の追及にたいし警察は「つり看板は違反ではなく」と認めながらも、「警官がそうだと思ひませんが、先生がいま御指摘になつたようなことがほんとうの実態關係としてあつたとは私は思ひません。十分承知していないで、そう

いう答弁をすることはいささか的はずれになるかもしませんけれども、なお私、そのような事

実關係について十分関係者からも事情を聞いて私自身も確かめたいと思います。いずれにしまして

も、先ほど申し上げましたように、警官に、屋外広告物のあるいはビラ張りなり札張り行為に対

して不当な行き過ぎた取り締まりといふものがな

いよいよ十分指導はしてまいりましたし、今後もしてまいります。」

あなたはいま、末端警察官に公正中立の立場で臨むように指導されておると言つた。この事例などから考へると、確かに一人一人の末端にまで思想は貫徹されておると思うわけです。しかし、貫徹されておる考え方といふのはこういうことなんです。あなたの言う、いわゆる公正中立といふようなことはどううござれぬと思うのですが、

どうですか、警察署。

○相川説明員 ただいま先生御指摘の事実關係、これまで私、逐一詳細に把握いたしておりませんけれども、現場の警察官としては、それぞれの違反事実がありまして、それに対して警察官としてるべき措置をとつたものと存じます。したがつ

て、その事実關係について私は十分に検討いたしておりませんので、その点は不十分でございますけれども、必ずしも先生が御指摘のように行き過ぎであり、不当な取り締まりであったということではないと思ひます。

○浦井委員 事実を知らぬわけですから、これは私も列挙しておきたいと思うのです。さつそくこの私が読み上げた大阪あるいは埼玉県の事例について、ひとつそういう事実があつたのか調査をして、そしてその後どのようになつてているのか。私はこういう事実があつたというふうに思ひます。これに對して、あなたの言うような、カッコづきではありますけれども、公正中立に、こういうことが今後起らぬよう指導を私は強く要求をしておきたいと思うわけです。

それからもう一つ例をあげてみたい。これも最近の事例でありますけれども、日弁連、日本弁護士連合会の人権擁護委員会から四十七年の十月五日にこういう書類が警察に警告書として送られておるわけなんです。これはそちらのほうにも連絡をしておいたから十分御承知だらうと私は思ひますが、それけれども、こういうことなんですね。

この事件のあらましを申し上げてみますと、豊島区池袋にある共同保育「子供の家」に保母として勤務をする二人の女性が警察官に、この場合は軽犯罪法の違反で不当な逮捕並びに不当な、明らかに人権侵害だと思われるような身体検査を受けておるわけであります。この「子供の家」といふのはいわゆる無認可保育所であるために、国や区からの補助はなく、わずかに都から園児一人につき月額千五百円の援助があるにどまり、その経営は苦しくそのため年に年一回バザーを開いて、その利益を経費の一部に充てておった。そうするうちに、昭和四十五年七月四日午後五時半ごろ、この日弁連の人権擁護委員会に申し立てた申し立て人が、翌日開くバザーを知らせるためにわら半紙大のビラを張り終わって池袋の路上に来たところ、かねてより顔見知りの池袋警察署員が、「ビラを張ることは軽犯罪法違反になる、住所、名前

を言え」と質問をされ、「これまで当然のこととしてやつてきた」「交番まで来い」ということで押して間答が始まつたわけです。そうこうするうちに、同じ保育園の同僚の保母や付近の人たちが集まつてきました。そこへ連絡を受けた池袋署のパトカー三台が十名ぐらいの警察官を乗せて到着して、申し立て人等二人を数人がかりで別々のパトカーに押し込んで、パトカーからは、スピーカーで「緊急逮捕」と連呼して、二人を池袋警察署に連行しました。こういう事実があるわけなんです。

一体こういうような逮捕のしかたがあるのかどうか。念のために警察庁にお伺いをしておきたいと思うのです。

○相川説明員 御指摘のような事実につきましては、四十五年の七月、警視庁管下池袋署において現実にござります。なぜこの二人の女性を逮捕いたしたかと申しますと、先生の御指摘にもございましたが、電柱にビラを張つてました。それに対し警察官が、無断で電柱にビラを張ることは軽犯罪法違反になるではないかということで職務質問をかけようとしたわけです。そうしたらさつとそこを立ち去るうとしましたので、あとを追いかけると言ふなんですが、あとを追いまして、百五十メートルほど行きまして、「待つてください」ということで質問をするわけです。(「こら待て」と言つたんじやないのか)と呼ぶ者あり)女性ですから、「待つてください」と警察官は申したと私は存じます。ところがこの二人の女性は、その警察官の待つてほしいという呼びとめを無視いたしまして立ち去るうとしたわけです。そしてビラを張つておりますが、一体そのビラを張るには管理者なり設置者の許諾の有無があつたのか、有無について尋ねたわけです。そうしたら二人ともそれに対する必要はないといつて、一切答弁を拒否したわけです。したがいまして、この二人の女性は軽犯罪法違反の現行犯ということであつても氏名も明らかではありませんでしたので、また逃走のおそれもあるというふうに判断をいたしまして、警察官はこの二人の女性を逮捕すると

いうことになつたものであります。

○浦井委員 これはもう全く言いのがれにすぎないと私は思うであります。すなわち、この日弁連の人権擁護委員会がこの件をいろいろ客観的に

調査をした判断が出ておるわけですかとおどかされ、これによりますと、大体警察は一切この日弁連の人権擁護委員会の調査に協力をしておらなかつたわ

けですけれども、

「七月七日付朝日新聞によれば、池袋警察署次長は、「住所、氏名を黙秘し、逃亡の恐れもあつたので逮捕した」という。」

こう書かれてある。しかし、いまあなたが言わ

れた軽犯罪法違反ということについてですけれども、日弁連人権擁護委員会の判断は、

「単に「住所、氏名を黙秘し、逃亡の恐れがあつた」というのみでは、適法な逮捕とはいえない、申立人等の容疑は、軽犯罪法違反であつて、同法違反の法定刑は拘留又は科料であるから、逮捕状による逮捕の場合ですら、被疑者が定まった住居を有しない場合又は正当な理由がなく……出頭の

求めに応じない場合」に限られるのである。然るに申立人等は定まった住居を有し、しかも警察官によると申立人等と顔見知りであるばかりでなく、勤務先まで知つてゐたのである。申立人等の身柄を拘束した警察官は外に向かつて「緊急逮捕、緊急逮捕」と叫んだようであるが、本件が刑事訴訟法第二一〇条に規定するその要件にもあつてはまらないことはいうまでもない」

こういう判断を日弁連の人権擁護委員会は下しておるわけであります。

さらに逮捕の件について「言つながらば、

「池袋警察署においては、申立人らの身体の拘束を現行犯逮捕手続によつて処理しているものと推測されるが、申立人らに対する容疑が軽犯罪法違反で、その刑が拘留または科料にすぎないものであるから、たゞ現行犯逮捕であつても職務

用の違法の疑いを免れず、少くとも不当のそり

を免れないといふべきである」

こういう判断を日弁連の人権擁護委員会は下し

ておるわけであります。これは一体どう思われますか。あなたのそういう言いわけでこれは済みますか。

○相川説明員 電柱などに無断でビラを張る行為そのものは軽犯罪法の一条の三十三号違反になるということにつきましては最高裁の判決もあるようですが、この違反事実は明らかであると存じます。

また同法違反の現行犯について逮捕することができるかどうかという御指摘でござりますけれども、日弁連の御意見は御意見として承りますが、犯人の住居もしくは氏名が明らかでない場合につきましては、あるいは逃走のおそれも考えられるという場合におきましては、軽犯罪法違反といえどもこれを現行犯逮捕して差しつかえないもの、逮捕する場合もあり得るものと私は考えております。

○浦井委員 これは全くすりかえでありますけれども、時間がございませんから……。このあとが非常に問題であります。こういうことで、

「同日午後八時半すぎごろ、看護婦の某さんが取調べ室に入り、取り調べにあつた警官が身体検査をする旨告げ、椅子を入口にすらして座つた。

申立人木村は室の入口から左隅の部分に、右警

察官を右方にみる形で立つたところ、看護婦は同

女の前で、ブラウスの前あきボタンを全部はずした。警察官に全部脱ぐのだといわれて困惑した木村は、看護婦に「あなたも女性としてどう思ひますか」など助けを求めて抵抗していたが、そのとき二人の警官が入口からのぞき込み、「かまわないから、やれ、やれ」と看護婦をけしかけ、室内にいた警察官も、「みんなやることなんだから、やれ、やれ」と命じた。

木村は身をよじつて抵抗したが、看護婦が近寄り、脇からブラウスの下に手を入れ胸と背をさぐり、ブラウスの前を開いて中を見、更に向きをかえさせて、スカートのファスナーを開き、内に手を入れて探つた

「申立人新妻八重子も、池袋署に連行されて後直ちに取調べ室に入れられ、ここではじめて逮捕の理

由を告げられた。申立人新妻が黙秘していると取調べにあつた警察官から「警察に来たら最後だ。自分の娘と同じ位の年だからやさしくしてやればいい気になりやがって」などとおどかされ、力いっぱい手をおさえられて指紋をとられ、写真撮影をされたので、ますます心細くなつていった。

本件身体検査をすると告げられ、看護婦が入つてきたので新妻は、一人の警察官から見えるところでおら上着である黄色のシャツに手をかけたが、看護婦が全部脱ぎなさいというので、指紋採取や写真撮影のように抵抗しても力づくで脱がされるのではないかとおそれて自ら脱ぎ、続いてGパンのズボンを脱ぎ、警察官に背を向けるようにしてプラジャーをはずし、これを看護婦に手渡しました。

新妻がそのまま立つていると、看護婦はさらにパンティに手をかけこれを太ものあたりまでさげ、再び元の位置に戻し、上方を開いて中をみた。この間約五分の時間経過した。その後木村と同様に新宿警察署に護送され、婦人警官から上衣とGパンを脱がれて身体検査をうけた。

〔委員長退席、天野(光)委員長代理着席〕

新妻がそのまま立つていると、看護婦はさらにパンティに手をかけこれを太ものあたりまでさげ、再び元の位置に戻し、上方を開いて中をみた。この間約五分の時間経過した。その後木村と同様に新宿警察署に護送され、婦人警官から上衣とGパンを脱がれて身体検査をうけた。

こういうことがあります。

〔委員長退席、天野(光)委員長代理着席〕

これはもうあなたは専門家だからよく御存じのようになります。この間約五分の時間経過した。その後木村と同様に新宿警察署に護送され、婦人警官から上衣とGパンを脱がれて身体検査をうけた。

〔委員長退席、天野(光)委員長代理着席〕

百八十八条の第一項によりまして、身体の形状または特徴を検証するための身体検査、あるいは身体について証拠物の発見、押収をするための捜索、差し押え等の規定はございます。しかし、先生が御指摘になりましたいまの事件につきましては、これは刑訴法の第二百八十八条第一項に基づく身体検査ではなくて、被疑者の女性二人を留置場に留置するための必要な身体検査を行なつたものでありまして、二百八十八条にいうものとは若干性質を異にするわけです。

と思う。今後、これを成立させてください、運用の上でひとつ熱慮して慎重にやりたい、行政指導もきつこうりたいと、いうようなことでは済まされぬ。これは憲法第二十一条の表現、言論の自由の保障の問題にかかるわけですよ。そういう点でもう一度大臣にお答えを願いたい。

○金丸国務大臣 言論の自由、表現の自由、これは当然保護されねばるべきものであります。法律の上においてつくられればあとはどうにもならないじやないか、こういうことでございますが、しかし、先ほど来から申し上げましたように、この法律は限定されねばるべきものであります。それが乱用されて国民に迷惑をかけるようなことがあつてはならない。そういう意味で私は私の考え方を申し上げたわけでありまして、先生の御指摘の点等につきましては十分意を用いまして、今後の行政指導その他各官庁との連絡等をいたしましてまいりたい、あるいは各県との連絡等をいたしましてまいりたい、こう考えておるわけでござります。

○浦井委員 それでは全く前と同じで進歩がないわけであります。

時間がもうないので、最後に私のほうから、せめてこういうような修正といいますか、改正、こういうことをすべきだということを、二、三提案をして、それに対する建設省、警察庁の見解をお聞きして終わりたいと思うのです。

軽犯罪法では先ほど私が読み上げたように第四条に、「この法律の適用にあつては、國民の権利を不当に侵害しないように留意し、その本来の目的を逸脱して他の目的のためにこれを濫用するようなことがあつてはならない。」こういう項をたとえば屋外広告物法にも入れるべきではないか、こういうように私は思うわけです。これは提案です。これが第一点。

それから第二点では、この法律で一番根本の問題は、一番初めの私の質問に関連があるよう、と、營利的なものと非営利的なものとが一様に、内容のいかんにかかわらずこの中にこつたにされておるというところにあるわけですから、この法律はさ

しあたって商業的あるいは営利的広告を内容とするものにはつきりと限定すべきではないか、こういうような意見を私は持つておるものであるわけです。それにさらにつけて加えるならば、先ほど参議院の建設委員会、本委員会でもいろいろ問題になりました例の適用除外の規定の問題、これも非営利的なはり札、立看板、こういうものには適用しないというような除外例をはつきりと少なくとも設けるべきではないか、こういうように私は思ひます。

それから第三点としては、軽犯罪法では料科することになつておるわけですから、科するところになつておるわけですから、やはりいまの現状からいって、非営利的なはり紙、はり札、こういうものに対しても刑罰を設けないと

う方向で改めるべきではないかというよう

に私は思うわけです。

以上三点について、第二点はダッシュがついておりませんけれども、ひとつまず建設省、それから警察庁、最後にまとめて大臣からお答えを願つて私の質問を終わりたいと思うわけです。

○吉田(泰)政府委員 この法律は軽犯罪法と違

います。つまりは、はつきりと目的も美觀風致の維持、公衆に対する危害防止ということに限つておりますけれども、ひとつまず建設省、それから

警察庁、最後にまとめて大臣からお答えを願つて私の質問を終わりたいと思うわけです。

○吉田(泰)政府委員 この法律は軽犯罪法と違

います。つまりは、はつきりと目的も美觀風致の維持、公衆に対する危害防止ということに限つておりますけれども、ひとつまず建設省、それから

警察庁、最後にまとめて大臣からお答えを願つて私の質問を終わりたいと思うわけです。

○吉田(泰)政府委員 いま浦井先生から御提案ありま

したとおり、私どももそのように考えておるわけ

でございますが、本法及びこれに基づく条例の運用にあたりましては、今後とも國民の権利の保護に遺憾のないようやつてまいりたい、こう考

えておりますので、よろしく御理解をいただきたい

と思います。

○天野(光)委員長代理 新井彬之君

○新井委員 私は、屋外広告物法の一部を改正す

る法律案につきまして質問させていただきます。

先ほどからいろいろと議論がありましたので、それを踏まえて質問したいと思いますが、この改

正案の作成にあたつて、美觀の維持と表現の自由、これが調和されなければならぬ、ということ

がさつきから非常に問題になつてゐるわけです。

一面では憲法第二十一条によるところの表現の自由、これが調和されなければならぬ、ということ

がさつきから非常に問題になつてゐるわけです。

法律では要するに美觀を中心としてそういうものを

取り締まらなければいけない、こういうことでござります。

したがつて、今回のこの改正にあたつて、その両面の調整といいますか、調和といいま

すか、そういうところをどのように苦心をされたのか、まずお聞かせ願いたいと思います。

の点は從来もやつてきたつもりであります。その後ともさらに一そうちその乱用の戒めということを徹底したいと考えます。

次に商業的、営利的な内容の広告物に法適用を限定すべきではないかということですが、この法律の目的、美觀風致の維持とか危害防止といふ観点から見ますと、広告物の内容といふ点には関連がないわけでありまして、それをあえて営利的なもの、営利以外のもと分けることに合理的な区分の根柢がなかなか見出せません。のみならず、営利的か非営利的かとの判断自体、まさにわざわざいることになりますと、そういふもつて内容に立ち入るということになりますとこれは非常な別途の問題を生じますので、そういう意味から、法律としてはそのような区別なしに全般について適用するほかないのではないかと思ひます。

それから適用除外の関係で、特にはり札、立看板のようなものは非営利的なものの適用除外をすべきではないかということになります。電柱に対してことさらに、はり札、はり紙、立看板の類を一切禁止物件とするような内容の標準条例を出しておりましたが、これにつきましては、先ほどおられた御質問にお答えして、標準条例としてそのように参考に供することは適切ではないと考え、これを削除することとしましたが、その点を除けば、やはり先ほど申し上げましたとおり、非営利的なものとその他といふことに分けることは問題であります。

最後に、刑罰を設けないということであります。が、本法の目的を達成するために最小限度の罰則というものが必要だらうと思います。その限度は法律によって罰金のみである、条例で定めなさい」ということでありまして、一方その罰金の額も、地方自治法の規定によつて、現在のところ最高十萬円ということになつておりますから、非常に限られた範囲の罰則になりますが、その程度の罰則といふことは憲法二十一条によるところの表現の自由、これが調和されなければならぬ、ということ

がさつきから非常に問題になつてゐるわけです。

一面では憲法二十一条によるところの表現の自由、これが調和されなければならぬ、ということ

がさつきから非常に問題になつてゐるわけです。

法律では要するに美觀を中心としてそういうものを

取り締まらなければいけない、こういうことでござります。

したがつて、今回のこの改正にあたつて、その両面の調整といいますか、調和といいま

すか、そういうところをどのように苦心をされたのか、まずお聞かせ願いたいと思います。

○吉田(泰)政府委員 まず、今回の改正は二点

の点は従来もやつてきたつもりであります。その後ともさらに一そうちその乱用の戒めということを徹底したいと考えます。

次に商業的、営利的な内容の広告物に法適用を限定すべきではないかということですが、この法律の目的、美觀風致の維持とか危害防止といふ観点から見ますと、広告物の内容といふ点には関連がないわけでありまして、それをあえて営利的なもの、営利以外のもと分けることに合理的な区分の根柢がなかなか見出せません。のみならず、営利的か非営利的かとの判断自体、まさにわざわざいることになりますと、そういふもつて内容に立ち入るということになりますとこれは非常な別途の問題を生じますので、そういう意味から、法律としてはそのような区別なしに全般について適用するほかないのではないかと思ひます。

それから適用除外の関係で、特にはり札、立看板のようなものは非営利的なものの適用除外をすべきではないかということになります。電柱に対してことさらに、はり札、はり紙、立看板の類を一切禁止物件とするような内容の標準条例を出しておきましたが、これにつきましては、先ほどおられた御質問にお答えして、標準条例としてそのように参考に供することは適切ではないと考え、これを削除することとしましたが、その点を除けば、やはり先ほど申し上げましたとおり、非営利的なものとその他といふことに分けることは問題であります。

最後に、刑罰を設けないということであります。が、本法の目的を達成するために最小限度の罰則といふことは憲法二十一条によるところの表現の自由、これが調和されなければならぬ、ということ

がさつきから非常に問題になつてゐるわけです。

○相川説明員 警察といたしましては、法律の中身につきましては建設省で十分御検討いただいた結果に従いたいと思います。警察に課せられた使命と申しますと、どうしても先ほどお答えがありましたように、罰則がありますれば、この罰則の適用について私どもがこれに当たるということにござりますが、この法律の目的、美觀風致の維持とか危害防止といふ観点から見ますと、広告物の内容といふ点には関連がないわけでありまして、それをあえて営利的なもの、営利以外のもと分けることに合理的な区分の根柢がなかなか見出せません。のみならず、営利的か非営利的かとの判断自体、まさにわざわざいることになりますと、そういふもつて内容に立ち入るということになりますとこれは非常な別途の問題を生じますので、そういう意味から、法律としてはそのような区別なしに全般について適用するほかないのではないかと思ひます。

それから適用除外の関係で、特にはり札、立看板のようものは非営利的なものの適用除外をすべきではないかということになります。電柱に対してことさらに、はり札、はり紙、立看板の類を一切禁止物件とするような内容の標準条例を出しておきましたが、これにつきましては、先ほどおられた御質問にお答えして、標準条例としてそのように参考に供することは適切ではないと考え、これを削除することとしましたが、その点を除けば、やはり先ほど申し上げましたとおり、非営利的なものとその他といふことに分けることは問題であります。

最後に、刑罰を設けないということであります。が、本法の目的を達成するために最小限度の罰則といふことは憲法二十一条によるところの表現の自由、これが調和されなければならぬ、ということ

がさつきから非常に問題になつてゐるわけです。

○相川説明員 警察といたしましては、法律の中身につきましては建設省で十分御検討いただいた結果に従いたいと思います。警察に課せられた使命と申しますと、どうしても先ほどお答えがありましたように、罰則がありますれば、この罰則の適用について私どもがこれに当たるということにござりますが、この法律の目的、美觀風致の維持とか危害防止といふ観点から見ますと、広告物の内容といふ点には関連がないわけでありまして、それをあえて営利的なもの、営利以外のもと分けることに合理的な区分の根柢がなかなか見出せません。のみならず、営利的か非営利的かとの判断自体、まさにわざわざいることになりますと、そういふもつて内容に立ち入るということになりますとこれは非常な別途の問題を生じますので、そういう意味から、法律としてはそのような区別なしに全般について適用するほかないのではないかと思ひます。

それから適用除外の関係で、特にはり札、立看板のようものは非営利的なものの適用除外をすべきではないかということになります。電柱に対してことさらに、はり札、はり紙、立看板の類を一切禁止物件とするような内容の標準条例を出しておきましたが、これにつきましては、先ほどおられた御質問にお答えして、標準条例としてそのように参考に供することは適切ではないと考え、これを削除することとしましたが、その点を除けば、やはり先ほど申し上げましたとおり、非営利的なものとその他といふことに分けることは問題であります。

最後に、刑罰を設けないということであります。が、本法の目的を達成するために最小限度の罰則といふことは憲法二十一条によるところの表現の自由、これが調和されなければならぬ、ということ

がさつきから非常に問題になつてゐるわけです。

一面では憲法二十一条によるところの表現の自由、これが調和されなければならぬ、ということ

がさつきから非常に問題になつてゐるわけです。

法律では要するに美觀を中心としてそういうものを

取り締まらなければいけない、こういうことでござります。

したがつて、今回のこの改正にあたつて、その両面の調整といいますか、調和といいま

すか、そういうところをどのように苦心をされたのか、まずお聞かせ願いたいと思います。

○吉田(泰)政府委員 まず、今回の改正は二点

ざいまして、一つは、届け出制に関する業者関係の規定であります。それから、もう一つが、從来、直接撤去できる広告物の種類がはり紙に限られておりましたものを、はり札と立看板の中で軽易な構造、軽易な取りつけ方をしたものに限って拡大しようというものです。いずれも規制のものとのあり方の部分については特に改正はなかったわけですが、現行法のあり方も、先ほど申し上げておりますように、美觀風致の維持あるいは危害防止というようなことを、設置する場所とか物件とか、構造寸法のたぐいの客観化されたものによって定めるということによってこれを明確化するということを一つとつておりまして、今回の改正で、たとえば業者の実情を把握し、十分指導、助言をして、屋外広告業者を通じての実際の広告物のあり方といふものの適正化をはかりたいというような趣旨につきましても、そういう観点からいえば登録制とか許可制とか、強く規制するほうが徹底することは間違いありませんが、やはり表現の自由に直接からむ営業種目でありますだけに、ほかの業種のように簡単にそのようなところまでは踏み込めないので、届け出という制度によりまして、その面でははなはだ手ぬるいようになりますが、実態の把握と実情の指導という面に期待するというところにとどめたというところにも、表現の自由との関連を十分配慮したつもりであります。

立看板その他ということと、合計で違反件数が五百四十九万二千五百三十六件あるわけですが、この中で営利目的に該当するのは何件ですか。

○吉田(泰)政府委員 この法律につきましては、先ほど申しているように、営利、非営利というふことを区分しておりませんので、そういうこともありましてその件数の内訳については調査いたしております。

○新井委員 では、これだけの膨大な違反件数があるということの原因というのは何ですか。

○吉田(泰)政府委員 営利、非営利を問わず、最も簡単な方法でできるだけたくさん的人に自己の意思を伝達したいという希望が非常に高いのだと思います。条例によりましていろいろな規制のしかたがありますが、一々許可をとることのわざらわしさその目的とするところがわりあい短期間に実現されてしまうというようなこともありますして、長期間広告をしなければならないようなものについては比較的違反は少ないとおもいますけれども、短期間の広告で足りるというようなものについて、手間を払いあるいは手数料を払って許可を受けて張るということが励行されにくいのではないかどうか。こういった問題は、法律による規制、取り締まりということも重要でありますから、何といいましてもその町、その場所と、いうものの美観風致を維持したいという多数人の感じ方というのも非常に重要なエートを占めておるわけでありますし、そういう点も、従来他の面に目が奪われて、比較的それほど重要な感ぜられなかつたというようなことがあるのではないかと思います。

○新井委員 これは四十六年の資料しか出ていませんけれども、要するに法律を改正をして、罰則をきびしくしてどんどん撤去する、こういうことになれば、それはなくなるという可能性もあるわけですけれども、たとえいうなら、私なら私が自分の意思で何かを書いて張つてみんなに知らせたいという場合に、そういうような表現の自由とい

うものは結局縮められてくる。それをやろうとすればするほど縮められてくると思うのです。そういうことで、たとえいいますと、さつき局長の説明になりました標準条例、この標準条例で見ますと、あそこもいけない、ここもいけない、ずっと書いてあるわけですね。そうすると、一般的の家にお願いをしてへいにでも張らしてもらうということ以外に、どこか張るところ、あるのですか。  
○吉田(泰)政府委員 標準条例は、禁止地域と、もう一つは禁止物件ということで、禁止区域、禁止する場所を定めておりますが、許可を受けなさいという許可地域等の規定を置いてあります。これはいずれも法律にその柱を出しておる条項でありまして、具体的に書いているものですから条文の号数としては相当あります。概略書いたものを明確化したために条文の分量としてはふえておるという面もあるわけでございまして、具体的に書いてあるわけではございません。これはいざれも法律にその柱を出しておるが指定する一定の場所以外は許可を受ければ張れます。具体的に張る場所といえば、ここに書いてない、禁止地域でも禁止物件でもない場所なり物件ということがあります。電柱などでも、特に知事が指定する一定の場所以外は許可を受ければ張れます。具体的に張る場所が考えられると思いまるということにすれば、これは全面禁止という場所は著しく縮まると思いますし、その他もちろん了解を得て民家に立てるということもありましょうが、いろいろな場所が考えられると思います。  
○新井委員 実際問題、これは具体的にいろいろ載っております。もちろん建築基準法であるとかあるいはまた文化財保護法であるとか都市計画法とか、いろいろありますけれども、道路それから鉄道あるいはまた電信柱、それから信号機とか消火栓、火災報知機、それから郵便ボスト、電話ボックス、とにかく考えられるものは全部出ているのですよ、個人の家以外は。だから、要するにある地域において——何も日本全国やるんだつたらテレビで流せばいいことでございまして、あらゆる地域において何か集会なら集会というものを知らせたいと、いうときに、ビラを張るということをやりますね。ところがそういうことがほとんどで、きりません。要するに憲法二十一條を侵害するほど規

制区域が多過ぎるんじゃない。したがって、そういうところの調整ということを初め私が聞きましたけれども、実際問題としては張るところないと思うのです。局長もいま、それを除いたもの以外あります。確かにそうなんですよ。だからそれを除いたら何が残るかということを私は聞いたわけなんですけれども、あとで局長から、それを除いたところにこういうものがありますということを考えてひとつ出していただきたい、このように思うわけです。

そういうことで、私はこの一つの違反物件にいたしましたが、さっき営利目的あるいは営利目的でないものとの区別はつかないということを言つておりますからわかりかねるのでされども、とにかく一つ、ビラを張るにいたしましても、当然ここでならないだらうということで、法律も何も知らないで張った場合、そういうような場合はどうなんですか。もちろんその法律に従つていろいろありますけれども、そういうことに対する罰則の適用というのはどういうようになつておりますか。

○吉田(泰)政府委員 法律や条例の内容は一般に告示されておりまして、これを知らぬといふことはならないはずなのであります。しかし実際に上の運用としては、多くの都道府県では、軽易な——軽易というのは、ビラを禁止した場所に張るというその枚数がそうち多くないとか、一回きりとかいうようなときには、たまたま見つけた場合には注意をしますけれども、いきなり罰則の適用ということまでは普通やつておらないと思います。しかし、たび重なるなり、たとえ一回であつても非常にたくさんの中をやつてある事実があるというようなときは、これはそういう直罰といふこともあります。しかし、たび重なるなり、たとえ一回であつても非常にたくさんの中をやつてある事実があるというようなときは、これはそういう直罰といふことがあります。

いろいろの御意見を聞いていると思うのです、そういう取り上げ方、あるいはまた都道府県知事がこの条例を制定するに際しましてきめる、そういうような意見というものがちょっと反映されていない、ということがあるようだと思うのですけれども、そういうことはどうですか。

○吉田(泰)政府委員 この標準条例は、私ども建設者として積極的に、いわば白紙の状態の県に対しても指導しようというような意味で制定したものではございませんで、こののようなあり方と、いうものは法律制定後しばらく見守っていたわけあります。各県の条例もかなり出そろつてきて、結果的には、いろいろ新しい、県にまとまるような高速交通体系なども出現するというようなこともあり、やはり各県別に自主的にきめるとは言え、ほぼ目安となるような標準条例案といふものがあれば、個々の事案について照会されて、建設省はこう思いますよというふうに回答するというようなことの繰り返しよりは、体系立って、実務的に便利ではないかという態度の考え方でやつておったわけがございます。その際最も基礎となりましたのは、各府県における条例の現実の定め方、それの多数を占めるような内容のものをモデルにするということが適切だらうと考えた次第でありまして、そういう意味で各府県の考え方と、いうものは標準条例案に反映していると私は考えております。

○新井委員 さつきもちょっとお話を出たかもわかりませんが、大阪府の屋外広告物条例について、まずこれが四十三年十月九日の判決で、電柱等へのビラ張りを禁止した大阪府屋外広告物条例二条で、これは違憲だという判決が出ておるわけですね。その後これがまた高裁に上がりまして、高裁におきましてはこれは合憲である、こういうことになつておるわけです。いま最高裁のほうでこの問題がいろいろと争われておると思います。こういうような問題がある中で、今回のこの法律を改正して強化しようというようなことはちょっとと

おかしいのじゃないかと思うのですけれども、こういう問題についてはどのように思いますか。

○吉田(泰)政府委員 仰せのとおり、この法律制定直後はあまり判例も、判決までいくものが少なかつたわけですが、その後、施行年数も経過いたしまして、最近では幾つかの訴訟係属中の案件が各地にあるわけでありまして、それも簡易裁判所、地裁あるいは高裁、最高裁と年数を経て上がつてしまりますので、一件だけでも結審するまでに相当時間がかかる、そのうちには次の事件も同時に起こつておるというようなことで、この種の判決の結論というものはそういう意味で切れ目があるとも思えないわけでござりますが、一方、最高裁は一貫して屋外広告物法自体及びこれに基づく条例は憲法に適合するという判決を下しておりますし、御指摘の事案につきましても大阪高裁はそのような見解を示しているわけであります。もともと今回の改正は、違反の対象を拡大するとか罰則を強化するというようなものではあります。従来の法律あるいは条例の中で違反しているもののいわば直接撤去の道を開いたというわけでもありますので、訴訟の結論というものの直接の関係は少ないのでないか、こうも考えておるわけであります。

○新井委員 選挙法との関係についてちょっとお伺いしておきたいのですが、選挙法と今回のこの法律との関係です。公職選挙法に基づくはり札、立看板等の関係ですね。それから公職選挙法に違反するはり札、立看板の除却手続については、本法によるものと公選法第百四十七条によるものとが競合することになつておるけれども、その調整

はまだなまづいておるけれども、そのように考へておられます。公職選挙法に基づくはり札、立看板なども、これまでのところは、立看板をみずから除却し、又はその命じた者若しくは委任した者に除却させることができる」ことがあります。御指摘の条例に違反してはり札立看板の除却等と、いふのがあります。これに対しての教説措置はあるか。それから行政不服審査法の対象となるか。この件はいかがですか。

〔天野(光)委員長代理退席、渡辺(栄)委員長代理着席〕

○吉田(泰)政府委員 今回の改正で、直接除却の対象ははり札、立看板にまで及ぶことになりますが、現行法でもはり紙についてはすでに規定がありまし、それから今回新たに対象としたといふのは、立看板なども含めまして、広告物一般について相手方が確知できないときの直接除却規定はすでに現行法にもあるところであります。以上を通じまして御指摘のよな事態が考えられるようになりましたし、それから今回新たに対象としたといふのは、立看板なども含めまして、広告物一般について相手方が確知できないときの直接除却規定はすでに現行法にもあるところであります。以上を通じまして御指摘のよな事態が考えられるわけであります。一回限りでやつてしまふ行為であります。そういう意味では本来の意味の教説措置はないわけでありますから、そのような誤認のないよう、現行法のはり紙につきましても条例違反等が明らかな場合に限つておりますし、今回追加しようとするはり札、立看板につきましては、その違反が明らかであるという要件のほかに、相当期間にわたり管理されずに放置されていること、が明らかだという要件をもさらに付加いたしまして、そのような誤認によつて除去してしまつた、救いようもないという事態のないよう配慮いたしました。

○吉田(泰)政府委員 公職選挙のためのポスター等は公職選挙法によることといたしまして、本法の適用を除外するよう各県の条例でもすべて規定しております。ただ、選挙期間をはすれますが、本法の適用があるということになりまして、御指摘のように除却の方法等につきましても関係がしてまいります。公職選挙法に照らした手続によつて直接除却規定を置いた際に、条例の基準を明確に一定期間内に撤去されるというようなものは別といたしまして、公職選挙法にも違反する、屋外広告物法にも違反するというものにつきましては、二つの撤去のしかたがあるというわけでありまして、そのいずれかに一本化するというような意味の調整規定は置いておりません。

○新井委員 不当な簡易除却措置、たとえば形式的には条例に違反しているが、周囲の美観風致をそねていないはり札、立看板の除却等と、いうのがあります。これに対しての教説措置はあるか。それから行政不服審査法の対象となるか。この件はいかがですか。

〔天野(光)委員長代理退席、渡辺(栄)委員長代理着席〕

○吉田(泰)政府委員 七条四項の「委任した者」というのは、知事が特に委任した第三者のことでありまして、考へられるのは関係市町村とか、あるいは道路上のものにつきまして道路管理者等を考へております。

○吉田(泰)政府委員 それから「相当の期間」と申しますのは、通常各都道府県のはり札、立看板の許可期限が一ヵ月程度ということになつておりますので、一ヵ月ぐらいいが限度であろう、そのぐらいあれば相当の期間といえる。ただし、広告物自体の表紙の内容から見てすでにその意図するところが達成されないと、いうようなものにつきましては、それが過ぎたならばもう相当期間といふことが言えるのではないか、こう思ひます。

それから「管理されずに放置されている」というのは補修とかその他必要な管理をしておらない、そのため良好な状態に保持されていないといふようなもの、あるいは行政が違反を発見しま

して除却せよとか何らかの警告をいたしましたにもかかわらず、たとえば五日とか一週間程度たつてもなおかつ除却しない、そのくらいの期間があれば除却することができるはずのもの、これはもう放置してしまっているのではないかという認定もできると考えております。

いうような意味の指導なども含めてされておるのではないかと考へております。  
○新井委員 屋外広告業の届け出ということになつておりますが、これについては登録制といふ意見がありますね。そういう意見についてはどうですか。

○吉田(泰)政府委員 確かに、私どもも考えておりまます講習会の内容は、いま申された程度のものであります。はなはだ簡易といわれればそのとおりであります。が、しかしそれにしましても、広告物の法とか条例とか施行規則というようなものによつて、いろいろと規制をなすのであります。

講習会修了者の設置義務が説明されていながら特例は説明されておらないわけですけれども、これはどういうことですか。

○吉田(泰)委員 いまのような比較的簡易な講習会を考えておりますから、それと同等以上といふものも幾つか考えられるわけでありまして、今まではこの二つを並んでおる形でござります。

それから講習会修了者を置く「其間を定めて」の規定は、この講習会は年に一回くらいかと思いまますので、次の講習会が終わり、それからあらためて手続を経て、講習会修了者を置くというのに要する期間を加えたもの、こういうことになります。

○吉田(衆)政府委員 税金制としてのことを一貫に考えてみたわけであります。が、登録制というものは、は一定の資格要件を持つてなければならないと、いう資格要件の定めがあること、及び無登録営業は禁止され、登録を受けなければ営業できない、そういう内容を伴つたものが普通登録制といわせておるだけなりまして、両者はこれに反

うものは講習いたしますし、その他これを取り巻く都市計画法とか建築基準法とかあるいは道路の占用なども多いでしようし、道路法といふような法令知識も一通り講習する、それから法律に違反しないというばかりではなくて、都市の美観あるいは危害防止といふ意味での表示の方法、現在の職業訓練法に基づく指導員の免許保持者その他全面的に免除できるもの、あるいは科目によって免除できるもの、いろいろ考えられるわけであります。御指摘の雑誌に触れて、いなかつた点は、執筆者が気がつかなかつたのか、気がついてもその記事を書くほどに意を配らなかつたのかわからぬまでも、私どもとして見る限り、こ

衆に対する危害を防止するために必要な指導、助言及び勧告を行なうことができる」こういわれておりますが、美観風致の維持ということばが非常に抽象的なんですけれども、そういう基準はどうなつておりますか。

度が違うわけであります。屋外広告業につきましては従来何らの規制もなかったわけでありますので、届け出でもって実情を把握し、行政指導の便で資するということが当面妥当ではないか。禁止し、別段要件を定めず、届け出があれば、受理しなければならないということで、かなり制約の程

より積極的な美観の向上というようなことについての心が見え、基礎的な考え方というようなものも説明でぎますし、また構造とか材料とか施工といふような面で、とりわけ危害の防止、十分な取りつけとあとの維持、補修というようなことの考え方の骨組みは十分説明できると思います。最も説明でぎますし、また構造とか材料とか施工といふような面で、とりわけ危害の防止、十分な取りつけとあとの維持、補修というようなことの考え方の骨組みは十分説明できると思います。も

確かに広い一般的な概念であります。これがこの屋外広告物法で規制の基準として用いる場合に、その美観風致というものを頭に置きまして、広告物を設置すべき場所といいますか、設置してはならない場所とか、設置していいかを個別に審査して許可しなければならない場所とか、あるいは設置してはならない物件であるとか、そういうふた客観的な、だれの目にもわかるような区域を限る、あるいはその形状、寸法等についても条例あるいはそれに基づく規則等によって明確に寸法をきめるというようなことによつて、それを守つてもらえば、法律の企図する美観風致が実現する、こういうふうに屋外で実施しているわけでありま

の解除といいう意味で許可に近いような登録といふものは、言論に非常に関連する営業種目としての屋外広告業に適用するということは、少なくとも現在のことの問題ではないか、こう考えておる次第であります。

○新井委員 第九条では都道府県が講習会を行なうことと定めておるわけですが、その内容は、屋外広告物に関する法令が六時間、それから屋外広告物の表示の方法に関する事項が四時間、それから屋外広告物の施工に関する事項が八時間、合計十八時間ということになつていてます。これだけの課程を修了すれば修了証明書が渡されるわけですけれども、はたしてどんな効果があるかといふことは非常に疑問になつてゐるわけです。登録制に

してその中に盛り込んだほうがいいのではないか、こういう意見があります。わずかの十八時間の講習を受けなければ営業所を開設することができない、こういうぐあいになつてゐるのですけれども、ここら辺、たつたそれだけのこととそんなに大事なものなのかどうかということをお聞かせ願

○新井委員 屋外広告物標準条例改正要綱案の中を見ますと、第三に講習会修了者の特例が載つておるわけです。雑誌「新都市」の中にはこの法律案の説明が書かれておるわけですが、その中には、とも遡けたはうがいい、こういうふうに考えておるわけであります。

らえるという意味で、この二つのものははつきりと全部免除していいのではないかと考えます。そのはか電気工事士とか建築士とか、非常に高度な試験なども必要とするものであります、残念ながら屋外広告物という関係について法令その他の知識という点の内容は含んでおらぬというものに

ゆだねられておりますから、全部の県が直ちに講習会修了者を義務づけるということにもならないかと思ひますけれども、その意義を認めるには足りるのではないかと考えております。登録制とからむという問題は、先ほどの言論関係の事業である、営業であるという觀点から、この際は少なくとも避けたほうがいい、こういうふうに考えておるわけであります。

「他の都道府県の講習会修了者」というものも、他の府県の条例は必ずしもその県の条例と一致するとは限りませんが、まあ実際にはそう大差がない組み立て方でありますから、これは講習を受けなくとも、自分で勉強してもらえば、その新しい県における法令、条例の規制内容は理解してもらえるという意味で、この二つのものははつきりと全部免除していいのではないかと考えます。そ

考え方の骨組みは十分説明できると思います。もちろんこれで十分というわけではないし、広告業の業態によりましてはさらに徹底した別途の資格等も要るわけですが、一応全般の広告業を通ずる最低限度の知識としては、こういうもので多くを望むわけにもいかないし、この程度のものでかなりの効果があるのです。現時点は何もないわけでございますので、こういうことで実施してまいりたい。もつともこの義務づけ自分が実際に

きる、こういうやういにいわれておりますが、その基準はどのようことで認定するのか。今日まで広告業を営んできた人たちはどのように當てはめるのか。この件について、お答え願います。

○吉田（泰）政府委員 非常に内容が似通つております代表的なものとして、先ほど申し上げました「職業訓練指導員免許所持者、技能検定合格者及び職業訓練修了者であつて、広告美術仕上げ」という規定と並んで、

○新井委員　屋外広告物標準条例改正要綱案の中を見ますと、第三に講習会修了者の特例が載つておるわけです。雑誌「新都市」の中にはこの法律案の説明が書かれておるわけですが、その中には、

のはか電気工事士とか建築士とか、非常に高度な試験なども必要とするものであります、残念ながら屋外広告物という関係について法令その他の知識という点の内容は含んでおらぬというものに

つきましては、その持つておられる科目、たとえば構造関係の科目であるとか、そういうものは当然除外していいのではないか、こう考えておりま  
す。

○新井委員 ひとつもう一へん確認ですけれども、今まで広告業をやっておって、長年たつた人はいいわけですね。

広告業自体は都市に非常に集中しておるわけで、各都道府県単位で講習会が行なわれすけれども、それが、その内容は非常にまちまちになるのじやないかと思ひます。そういうような不都合をそれから、講習を受けた県だけ通用するのか。たとえていいますと、東京都で講習を受けたら東京都だけに通用するのか。それから仕事をする場合に、東京都のそういう講習の免状を持っておるけれども、神奈川県なら神奈川県の仕事もできるのかということです。

○吉田(泰)政府委員 県ごとに講習会をやると、その程度、内容等ばらつきはしないかということあります。この法律そのものの仕組みもそうですが、この講習会をやるかやらないか、講習会修了者を義務づけるかどうかと、いうことであります。この法律そのものでは、その講習会をやるかやらないか、講習会修了者を義務づけるかどうかと、いうことでもあります。この法律に基づく規定を置き、ある県ではお様子を見て置くというようならぐはぐがあり得ると考えております。それもやむを得ないと思ひます。そういうことでありますから、講習会の内容自体もある程度ばらつくことは予想されます。私どもとしましては、講習会修了者を義務づける以上は、たとえば半日くらいで終わるような、あるいは非常に片寄った科目しかやらないような義務づけるということと自体がおかしいではないか。そういう観點から最低限といふものは課する必要がある。またあまりにも重いものを課することは、これは講習会を修了すればいいとして、その間に拘束される、講習会出席のための犠牲もありますし、広範な範囲を一律に考えておる現状におきましては、そう高きを望むことは過大で

つきましては、その持つておられる科目、たとえば構造関係の科目であるとか、そういうものは当然除外していいのではないか、こう考えておりま  
す。

○新井委員 ひとつもう一へん確認ですけれども、今まで広告業をやっておって、長年たつた人はいいわけですね。

広告業自体は都市に非常に集中しておるわけで、各都道府県単位で講習会が行なわれすけれども、それが、その内容は非常にまちまちになるのじやないかと思ひます。そういうような不都合を

それから、講習を受けた県だけ通用しないかと、いうこととでございますが、先ほど申しましたように、その条例に他県の講習会修了者も免除するというこ

とに規定してもらいたい、これも考えております。それから、一県だけしか通用しないかと、いうこととでございますが、先ほど申しましたように、その条例に他県の講習会修了者も免除するというこ

とに規定してもらいたい、これも考えております。それから、一県だけしか通用しないかと、いうこととでございますが、先ほど申しましたように、その条例に他県の講習会修了者も免除するとい

うことを指導したいと思います。

それから、一県だけしか通用しないかと、いうこととでございますが、先ほど申しましたように、その条例に他県の講習会修了者も免除するとい

うことを指導したいと思います。それから第二番目の点の、規制ばかりではダメなので、むしろ積極的にいい広告物を表彰したりするなどして他の県にも通用するということでありまます。なお、屋外広告業者が実際に屋外広告物を表示する場所の、その県の条例が適用になるということであります。

○新井委員 その辺はよく詰めていただきたいと思うのです。それからもう一つは講習料なんですかね。講習料を取らない、これはきょうは時間があれでですから長々と説明しませんけれども、そういう方向でひとつ検討をしなければならないということです。

○吉田(泰)政府委員 その辺はよく詰めていただきたいと思うのです。

○吉田(泰)政府委員 その辺はよく詰めていただきたいと思うのです。それからもう一つは、先ほどから私が言つていますように規制措置が非常に多いわけですね。何でも規制措置、そういうことできてるわけですが、さらにこの点を徹底して、規制というばかりでなくして、むしろ前向きに、よりよくするといふ面に大いに力を注ぎたいと考えます。

○金丸国務大臣 講習会の料金の問題につきましては、ただいま局長から述べたとおりあまり高く取るということではないので、できるだけ安い経費でやれるような指導をしてまいりたいと思いますし、また、規制ばかりではないといふことでもございますが、確かに御指摘のとおりであります。私も、都道府県でやつておるというような面もあるわけでございますが、建設省自体も、ひとつ国として考えてみてもいいのじゃないか、こんなことも考えて、非常にいい提案をいたきましたがつて、優良広告物については表彰するとか、あるいはまた模範広告物の設置をするとか、そういうふうなことはやらなければならぬと思ひますけれども、これについては大臣、お答え願いたいと思います。

○新井委員 最後にお伺いしたいのですが、さつきの講習料の問題等につきましては、非常に零細業者が多いわけですね。したがつて仕事の関係とかそういういろいろなことがありまして、そういうことで配慮してひとつお願いしたいということです。

○吉田(泰)政府委員 ちょっと私から先にお答えをさせていただきます。

講習会は、やはりそれだけの条例の定めがある以上、一つの資格を与えるわけありますから、

その人にはかの人と違った地位を与えるという意味もありますし、実費としても若干のものがかかる

○渡辺(武)委員 この屋外広告物法の持つておる目的といいますか、つまり美観風致の維持あるいは危害の予防、こうしたことのためにこの法律ができたおるということございますが、その目的は実は私も大賛成であるわけです。しかしながら、この法律そのものの持つておる内容でこの目的が達成できるであろうかと考えておきますと、問題があまりにも多過ぎるといわざるを得ないわけでございまして、今回改正しようとしておりますが内容だけでも、決して私はこの目的が達成できることは考へられないわけでございます。

そこで最初におきたいのは、屋内外告物行政というもの、このものの基本的な考え方と今後の方針についてお聞かせを願いたい。

考え方といたしましては、目的にあります美観風致の維持と公衆に対する危害防止、この二点を目標として、これを片一方では、直接的な条例の規定による規制ということを行ない、一方では、そ

れを取りまとめて実際上のあり方、それに関連するものとしては、地方公共団体自体もありますし、住民の方々の意識もありますが、なかんずく実際の広告物の表示作業に従事される屋外広告業者

者といふもののが見え、あり方といふものが非常に大きな力を持つておると考えます。これにつきましては、登録制というような許可制に近いところまではいかず、まず実態を把握するといふ

ことから始めまして、あとは事実上の行為として助言とか勧告とか指導というようなことによつてやつていただきたいと思います。このような規制と指導ということが二つの行き方でありまして、私どもとしては、従来ともすれば手抜かりの多かつた指導とか積極的な推進の面にさらにさらに力を入  
れよければならない、こう考えておる次第でござります。

○渡辺(武)委員 実はこの法律をわれわれ審議をしておるわけですが、私自身非常にうしろめたい気持ちでこの法律の審議に参加をしておる。なぜかといふと、国会議員、みなそらうなこと言います。

ますが、ほんどの人がこの屋外広告物法には違反しておる。その条例を定める県会議員の諸君もまた大部分がその条例に違反して実は今日あると思うのです。そういう立場で、さらに規制を強めようという法規制をやろうとするとはきわめてうしろめたいのです。なぜそうなるのであろうか。私は、根本的な考え方が間違つておるのではないか。だらうか、こう考えるのです。屋外広告物による公衆の危害を守るという立場から、屋外広告業者の教育をし直したりいろいろなことをやることなどは当然必要でございましょう。しかしながら抜け道がそのまま残つておる。といふのは、つまり広告をつける広告業といいますか、それを営業の目的としておられる方々にはそういう義務が課せられてまいりますけれども、たとえば営業の目的としないす屋のおやじさんが、看板だけ書いてもらつて、自分でつけるという場合は、これはどうなるのでございましょうか。別に講習を受けなくともつけられるわけでございましょう。つまり営業を目的としておる人たちに対してそういう規制がかけられておる、こういうことですから、やはり公衆に危害を及ぼすおそれがある。たとえば看板が落ちてくるというようなことがあれば、当然それらの教育は徹底してやらなければいかぬし、それは単なる届け出だけでいいであろうかという危惧が実はあるわけです。むしろ許可制にして、ほんとうにそういう技術を身につけたかどうかのチェックが必要じゃないのであるうか、そういうふうに考えるわけでありますが、先ほどはそこまでは考えていないという御答弁のようございました。しかしながら現実の面としてほんとうに公衆に危害を及ぼすおそれがあるとするならば、私はある程度そういう方向に進むべきではないであらうか、こう考えるわけでございます。

る、こういふ美名に騙された取り締まり、その結果が民主的運動をも弾圧をするという結果に相なつてしまふ、こういふことですから、この法律そのものも相当まだ不備があるのではないだろか。たために、大きな声で討論を続けておりまして、私ども自身が現実にはその法律に違反し、条例に違反をしておる。残念なことだけれども現実はそうなんです。だから、そういうことがほんとうに正しいのであるかといわざるを得ないわけですね。どうしたならばその矛盾が解決できるでありますか、これを私は真剣に考えなければならぬと思います。この辺のところ、局長いかがでしようか、どのようなお考え方を持つていらっしゃいますか。

ろから見まして、官利、非官利という区別はできないし、またそれをすること自体が一方では広生物の内容に関与してしまうという問題がござります。そういうことで現行法では一切の広告物を並等にとらえて規制の対象にいたしておりますが、実際の運用といたしましては、先ほど來のいろいろな御指摘もござりますし、同じく形式的に違反すると申しましても、一時的な一回限りといううなものにどれほど直接に罰則を適用すべきかと、いうことをよく考えなければならぬわけでありまして、表現の自由、言論の自由の問題ともからみまして、法律上その区別はなかなか困難でありますけれども、運用のあり方としては、長期間統的に掲出される広告物と必ずしも同じように機械的に運用すべきものでもない、このように考へる次第であります。

○渡辺(武)委員 運用の面で分けていけばいいのだとおっしゃる。現実に法律の内容は、先ほど述べたの討論にもありましたように、たとえば選舉運動の期間のうちには公職選挙法によつてそれが優先をしていく、こうおっしゃるわけですが、現実にはやはりものごとを行なうためには準備運動が必要でございまして、準備の期間というのは相当ある。たとえば、つい先日も、労働者が企業に通う場

合、準備活動として通勤という行為が必要なの  
だ。したがって、会社に通うあるいは家に帰るとい  
う行動そのものも業務上災害として認定をしよ  
う、こうすることになつていてるわけですから、つ  
まりはものごとには準備時間が必要だ。そうしま  
すと、公示から投票日まではいいけれども、それ  
以外のものはすべてこの広告物法が適用され  
た、こういうお返事だったわけでしょう。適用さ  
れながらも運用の面では除外をしていくと、どこ  
に書いてあるのですか。どうということですか、局  
長。

○吉田(泰)政府委員 公職選挙法の立て方の問題  
を考えますと、あの期間をもつて選挙活動をするの  
だということで定められておりまして、それを私  
どもは援用して、その期間は適用除外するという  
ことを考へておるわけであります。準備あるいは  
事後といふことも、選挙期間に近い時期であれば  
十分考へられるわけであります。どこまでを  
限つていいかということもありますので、なかなか  
か条例などで明確には定めがたいことではない  
か、こう思つておる次第であります。やはり、  
現在も実際に行なわれているよううな各府県におけ  
る行政の運用ということにゆだねるということが  
最も適切な解決のしかたではないかと考えておる  
わけであります。

○渡辺(武)委員 それは局長自身の主觀による適  
切な处置であつて、私は決して適切だとは思わな  
いのです。たとえば、われわれ自身が国民に対し  
て国政の報告をしようとする、あるいは県会議員  
が県政の報告をしようとする、そういう場合は不  
特定多数の方々にそれらのことを知らしめていか  
なければいかぬ。こういう場合も往々にして起  
つておるわけですね。それらはすべてこの広  
告物法によつて規制をされていくということです  
から、実際はこれは非常に大きな問題があると思  
うのです。

そこで、局長も御存じのように、「ネコを追う  
よりさらを引け」ということばがあるんですよ。  
先ほど来電柱の問題がございまして、電柱に張つ

てはいかぬとかいいとかいろいろ論議をされましたが、美観上、風致上の見地から見るならば、私は電柱そのものは、電線そのものを地下に埋設すべきだ、こう考へるほうが適切であると思うんですよ。そのかわり、国民の皆さん方に知らしていかなければならぬことがたくさんあるわけですから、当然公営の広告塔というものが設けられてこなければいかぬ。西ドイツ等に行けば町に広告塔が立つておって、ビルがみなそれに張られておる。これはそんなに美觀を害しない。かつてにべたたと軒先に張つたり電柱に張つたりしてはならないというような規制が主体になつておるわけですが、むしろこうしなさいといふうに考へられると思うのです。従来の法律をよく見ておきますと、ほとんどが、してはならない、やつてはならないというような規制が主體になつておるわけですが、むしろこうしなさいといふうに転換をせしめていくべきではないであらうか。特にこの広告行政というような問題は、従来からいろいろ言われてまいりましたけれども、憲法との関係もあり、実際はそう簡単に取り締まりはできないということです。だから今度改正をされようとしておる法案の内容を見ましても、いろいろな面で不十分だろう。しかも一方には、そのため正当な言論が抑圧をされしていくおそれがある。規制と一緒にして強化すればするほどそういう危惧の面が出てくるわけです。したがつて、一方では公衆の危害を防除するために、確かにそういう廣告、看板等を取りつける技術その他等の講習なりあるいは規制を厳格にしていかなければいけないということはわかる。ところが他方、そういう言論抑圧に通じないような方向が同時に考えられていかなければいけないのではないか、こう考へるわけですが、いかがですか。

○金丸国務大臣 言論、表現の自由を抑圧してはならない、保護していかなければならぬことは当然であります。

〔渡辺（衆議院議員長代理退席、委員長着席） いま先生からお話をありましたように、公営の掲示板を考えるということは——規制、規制とい

ておるという状況は、建物の構造からいろいろ変化しておる。それに電信柱にもいかぬということになる。また実際に電信柱にははり紙ができないような装置をするというような計画もいましてありますから、だんだん縛め出しを食つていくよなことになるということを考えてみますと、先生の御提案の、何か公営の掲示板みたいなものをして、いわゆる表現の自由というような場所をつくるべきだということ私も一つの大きな提案だと思います。ことしというごとにひ間に合いませんが、来年度等につきましてひとつ十分に検討させていただきたいと思います。

○渡辺（武）委員 そういう面で、私は規制を強化する必要も認めますが、一方規制を強化することによっていま申し上げているような憲法上の問題、基本的人権の問題等々が出てまいりますから、一方ではそれを救済する具体策というものがあわせて考えられていかなければいかぬ。大臣も早急にそういう問題が起るので、ここで何らかの方法がやはり必要ではないであらうか。つまり、そういう面に対する配慮がなされていないと、論議がされておりましたような、いたずらな摘発といいますか、検挙が行なわれてしまふ、こういう事態があるわけですから、その辺は相当慎重に取り扱つていただきたい、私はかように考へるわけでございます。

したがつて、私は実は法案の内容そのものをあまり云々したくないのです。というのは法そのものにこのままであれば私は賛成したいわけですから。ほんとうは規制を強化すると同時にそういう措置がとられるということが必要なわけですけれども、そうではありません。したがつて、法案そのものの詳細な検討には入りませんが、基本的

な考え方として、いまも申し上げておりますように、一方で公衆の危害を防除しあるいは美觀を維持するためには規制が必要だ、その必要性は十分に認めています。ところが他面、そういうために国民が受けてくる制約が基本的人権にまで及ぶ、あるいは言論の抑圧ということに通ずることがあつてはなりませんので、この点だけは十分慎重に再検討していただくことを要望いたします。

午後四時二十二分散会

○服部委員長 次回は、来たる二十日金曜日午前十時理事会、午前十時三十分委員会を開くこととし、本日は、これにて散会いたします。

昭和四十八年八月一日印刷

昭和四十八年八月三日發行

衆議院事務局

印刷者 大蔵省印刷局